

# うみがめニュースレター

UMIGAME NEWSLETTER OF JAPAN

No.101 2015



繁殖期のアカウミガメ ( <i>Caretta caretta</i> ) によるハリセンボン科魚類の捕食例	2
.....宮里俊輔・梅本巴菜・福川優希・宮本圭・河津 勲	
沖縄島に死亡漂着したオサガメ <i>Dermochelys coriacea</i>	4
.....松本和将・鈴木瑞穂・河津 勲	
沖縄島で死亡漂着したクロウミガメ <i>Chelonia mydas agassizii</i> の消化管内容物	8
.....木野将克・前田好美・河津 勲	
第25回日本ウミガメ会議 奄美大島会議 開催報告とお礼	11
.....日本ウミガメ協議会 三根佳奈子	
2014年ウミガメ速報	13
.....日本ウミガメ協議会	
うみがめニュースレターに投稿される方へ (原著論文の投稿規定)	26
編集後記	28
.....石原 孝	

## ■デジタル(PDF)版も利用できます

専用サイト ([http://www.umigame.org/J1/katsudou\\_newsletter.html](http://www.umigame.org/J1/katsudou_newsletter.html)) からネット上でデジタル版(PDF版) うみがめニュースレターをダウンロードしていただくことができます。デジタル版の利用が可能な方で、アナログ版(紙に印刷され郵便で届く従来の冊子)の配信中止をご希望の方は、お手数ですが、[newsletter@umigame.org](mailto:newsletter@umigame.org)までご連絡ください。タイトルに、「アナログ版不要」とご記入の上、本文には、受取人氏名(封筒に明記してある個人名または団体名)を明記してメールを送信してください。経費削減と紙資源の節約に対する皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## ■寄付のお願い

「うみがめニュースレター」は、これまで小笠原村からの補助を受けて発行されてきましたが、2011年度を持ちまして本補助事業が休止となりました。現在は日本ウミガメ協議会より補助を受けて発行を継続しておりますが、財政状況はこれまで以上に厳しい状況にあります。今後も皆様からの温かいご寄付をお待ちしております。切手の寄付も大歓迎です。また、協賛広告も併せて募集中です。詳細はメールで [newsletter@umigame.org](mailto:newsletter@umigame.org) までお問い合わせ下さい。

郵便振替口座 10120-25391001

加入者名 うみがめニュースレター編集委員会

連絡先

〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町3-17-18-302 日本ウミガメ協議会内

Tel: 072-864-0335 Fax: 072-864-0535 e-mail: [newsletter@umigame.org](mailto:newsletter@umigame.org)

## ■寄稿者へのお知らせ

本誌はウミガメに関する国内唯一の総合情報誌として、関連するあらゆる情報を取り扱い掲載しています。生物学的知見はもちろんのこと、ウミガメに関わる民俗、保護、論評や意見、会議報告なども含みます。様式は特に定めるものではありませんので、読者の皆様もどうぞお気軽にご寄稿ください。なお、本誌はISSN番号の登録を受けた定期刊行物で、海外の関連機関や研究者へも配布しております関係上、編集の際に英文の要旨とタイトルをつけております。予めご了承下さい。

## ■表紙の写真

2014年11月28日から30日にかけて奄美大島で開催された、第25回日本ウミガメ会議での集合写真です。全国各地からウミガメ屋と関係者が鹿児島県の離島、奄美大島で一堂に会しました。参加者の多くは会議の後、奄美の自然を堪能したようです。今号にはこの会議の開催報告が掲載されていますので、そちらも合わせてご覧ください。(文責: 石原 孝)

## 繁殖期のアカウミガメ (*Caretta caretta*) によるハリセンボン科魚類の捕食例 Confirmation of loggerhead turtles (*Caretta caretta*) ingesting porcupine fish (*Diodon* sp.)

宮里俊輔<sup>1</sup>・梅本巴菜<sup>1,2</sup>・福川優希<sup>1</sup>・宮本圭<sup>3</sup>・河津勲<sup>3</sup>  
Shunsuke MIYAZATO, Hana UMEMOTO, Yuuki HUKUGAWA,  
Kei MIYAMOTO, and Isao KAWAZU

2014年3月7日、沖縄県糸満市名城のエージナ島近くの海岸(26°06'N, 127°39'E)でアカウミガメの死体漂着を発見し、現地に赴き解剖調査を行った。解剖を行った結果、消化管内から大量のハリセンボン科魚類を確認した。また、2014年3月25日にも名護市久志の海岸(26°31'N, 128°01'E)でアカウミガメの死体漂着があり、同様に解剖調査を行い消化管内からハリセンボン属の魚類1個体を確認した。アカウミガメの消化管内から大量のハリセンボン科魚類が確認された例は他に無いため、久志の事例と併せてここに報告する。

糸満市名城に漂着した個体(以下、個体①とする)は、標準直甲長857mm、直甲幅683mmのアカウミガメで、尾の伸長が確認出来た。Ishihara and Kamezaki (2011)に基づく、北太平洋のアカウミガメの性成熟した個体の直甲長は821mm以上であることから、本個体は雄の成熟個体と推定できた(図1-a)。名護市久志に漂着した個体(以下、個体②とする)は、直甲長798mm、直甲幅646mmのアカウミガメ(図1-b)で、未発育の卵巣が確認されたことから、未成熟個体の雌と判断された。どちらの個体も目立った外傷はなく、内臓にも顕著な異常は認められず、死因の特定には至らなかった。

個体①は消化管内に全長110–150mmのハリセンボン科魚類を15個体確認した(図2-a)。これらのハリセンボン科魚類は体の棘が可動性であること、背鰭・尾鰭に黒点が無いこと、尾柄部背方に棘が無いことおよび体の黒色斑に白い縁取りが無いことから、ハリセンボン *Diodon holocanthus* に同定された(藍澤・土居内, 2013)。個体②は胃からハリセンボン科魚類が確認され、体の棘が可動性であることからハリセンボン属であることは確認されたものの、消化が進



図1-a. 糸満市名城に漂着したアカウミガメ(個体①)  
Fig. 1-a. The loggerhead turtle was stranded at Nashiro, Itoman, Okinawa Prefecture, Japan

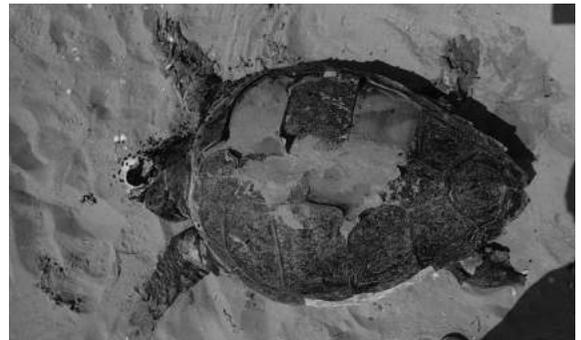


図1-b. 名護市久志に漂着したアカウミガメ(個体②)  
Fig. 1-b. The loggerhead turtle was stranded at Kusi, Nago, Okinawa Prefecture, Japan

行していたために種の特定には至らなかった。

日本沿岸に生息するアカウミガメの消化管内容物を調査した過去の事例では、タコやヤドカリ類(山口ほか, 1993)や、巻貝や二枚貝などの貝類(中村・浜野, 2002)が確認されている。しかしながら、本個体の消化管内容物からは、ハリセンボン属魚類のみが確認され、特に個体①からは15個体のハリセンボンが確認された。

<sup>1</sup> 琉球大学ウミガメ研究会; E-mail shunm1992@yahoo.co.jp

<sup>2</sup> 茨城大学 連携大学院 農学研究科

<sup>3</sup> 一般財団法人 沖縄美ら島財団 905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川 888; E-mail i-kawazu@okichura.jp

この結果はアカウミガメがハリセンボンを積極的に摂餌する証拠となるといえる。

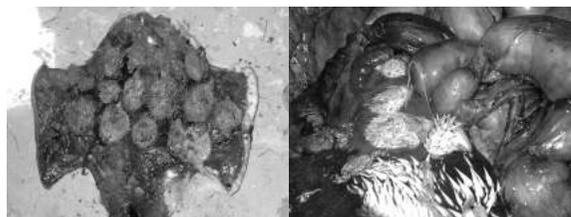


図 2-a. 糸満市名城での個体から得られたハリセンボン  
Fig. 2-a. Long-spined porcupine fish were found in the digestive tract of the loggerhead turtle stranded at Nashiro, Itoman, Okinawa Prefecture, Japan

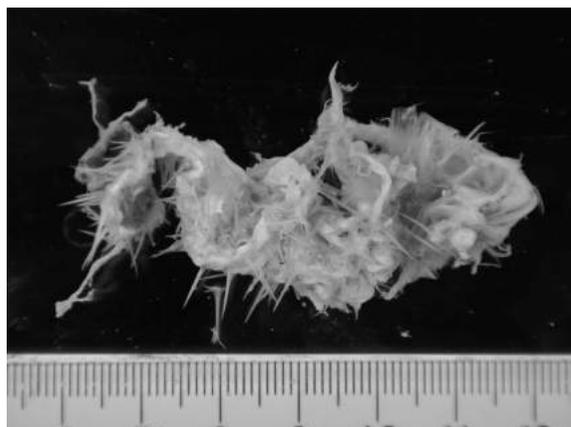


図 2-b. 名護市久志での個体から得られたハリセンボン属魚類  
Fig. 2-b. The part of the porcupine fish was found in the digestive tract of the loggerhead turtle that stranded at Kushi, Nago, Okinawa Prefecture, Japan

アカウミガメは 12 月から沖縄沿岸に出現することが知られており (平手, 2005; Kawazu et al., 2013), 産卵盛期は 5-7 月である (Kikukawa et al., 1999). したがって, 両個体が漂着した 3 月はアカウミガメの交尾期にあたりと考えられる. 個体①の消化管内から得られたハリセンボンは消化管上部に集中して確認できた. このことはハリセンボンを摂餌後まもなく死亡したと推察できる. さらに個体①やハリセンボン自体の腐敗が進行していなかった事から, 個体①は死亡してから漂着するまでの時間が比較的短かったと思われる. この事は本個体が沿岸域で死亡し, 漂着した可能性が高いことを示唆する.

アカウミガメは東シナ海を摂餌海域のひとつとしており (Kamezaki, 2003), ハリセンボンも東シナ海全域に分布し, 沖縄島沿岸にも生息している (山田ほか, 2007). したがって, アカウ

ミガメが沖縄島沿岸域でハリセンボンを摂餌していても不思議ではない. 以上の事から, 特に成熟した雄であった個体①は, 交尾期に沖縄島沿岸でハリセンボンを摂餌していたと考えられる. 繁殖シーズンのウミガメ類の雌は摂餌可能な場所が繁殖海域近くに無ければ摂餌行動をしない傾向にあると言われている (Bjorndal, 1997). しかしながら, 本事例は繁殖海域でアカウミガメが摂餌していたことを示す貴重な事例と言えよう.

今後もウミガメ類の消化管内容物を調査することで, 沖縄島沿岸に生息するウミガメ類の食性や繁殖生態に関する貴重なデータが得られると考えている.

#### 引用文献

- 藍澤正宏・土居内龍. 2013. ハリセンボン科 Diodontidae. 中坊 徹次 (編), p. 1743-1745, 2241-2242. 日本産魚類検索全種の同定. 第三版. 東海大学出版会, 東京.
- Bjorndal, K. A. 1997. Foraging ecology and nutrition of sea turtles. p199-231. In: P. L. Lutz, and J. A. Musick, (eds.). The Biology of Sea Turtles: CRC press, Boca Raton, Florida.
- 平手康市. 2005. 竜宮城への招待. p. 173-184. 矢野和成 (編) 南の島の自然誌 沖縄と小笠原の海洋生物研究のフィールドから. 東海大学出版会, 神奈川.
- Ishihara, T., and N. Kamezaki. 2011. Size at maturity and tail elongation of loggerhead turtles (*Caretta caretta*) in the North Pacific. *Chelonian Conservation and Biology*, 10 : 281-287.
- Kamezaki, N. 2003. What is a loggerhead turtle? The morphological perspective. p. 28-43. In: A. B. Bolton and B. E. Witherington (eds.). *Loggerhead Sea Turtles*. Smithsonian Books, Washington, D. C.
- Kawazu, I., K. Maeda, M. Kino, and S. Oka. 2013. Structure of the loggerhead turtle assemblage in Okinawan Waters estimated from variation in body size and blood profile. *Current Herpetology* 32(2): 190-196.
- Kikukawa, A., N. Kamezaki, and H. Ota. 1999. Current status of sea turtles nesting on Okinawajima and adjacent islands of the central Ryukyu, Japan. *Biological Conservation* 87: 149-153.
- 中村清美・浜野龍夫. 2002. 東シナ海で混獲さ

れたアカウミガメの消化管内容物. うみがめ  
ニュースレター (54): 2-6.

山口剛宏・加藤弘・亀崎直樹. 1993. 第3回日  
本ウミガメ会議講演要旨. 渥美半島と静岡西  
部に打ち上がったアカウミガメの死体の解剖  
結果?主として胃内容物について. うみがめ  
ニュースレター (15): 8.

山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次.  
2007. 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出  
版会, 神奈川. 1262p.

#### Summary

We found porcupine fish in the digestive tracks of  
two loggerhead turtles that stranded in Okinawa

prefecture, Japan. The first loggerhead turtle (male,  
straight carapace length = 857 mm; straight carapace  
width = 683 mm) was found dead on 7 March 2014  
at Nashiro, Itoman (26° 06'N; 127° 39'E). We found  
relatively fresh 15 freckled long-spine porcupine  
fish, *Diodon holocanthus*, in the upper part of the  
digestive system of the turtle. The second  
loggerhead turtle (female) was found dead on 25  
March 2014 at Kushi, Nago (26° 31'N; 128° 01'E),  
and its straight carapace length and width were 798  
mm and 646 mm, respectively. For this turtle, we  
found a body part of *Diodon* sp. in its digestive  
system.

## 沖縄島に死亡漂着したオサガメ *Dermochelys coriacea*

A stranding report of leatherback turtle at Okinawajima Island.

松本和将<sup>1</sup>・鈴木瑞穂<sup>2</sup>・河津 勲<sup>3</sup>

Kazumasa MATSUMOTO, Mizuho SUZUKI, AND Isao KAWAZU

はじめに

オサガメ *Dermochelys coriacea* はオサガメ科  
オサガメ属に属し, 太平洋, インド洋, 大西洋  
に生息するカメ類最大種である (亀崎ほか,  
2012). 太平洋における主要な産卵地は太平洋  
東部ではメキシコとコスタリカ, 太平洋西部で  
はインドネシアのイリアンジャヤ, マレーシア,  
パプアニューギニアに分布している (Spotila et  
al., 1996). 近年, その産卵個体数はマレーシア  
(Chan and Liew, 1996) や中米太平洋岸 (Spotila  
et al., 2000) において減少の一途をたどってい  
る. 国内におけるオサガメの産卵は, おそらく  
同一個体によるものが 2002 年 6 月 28 日および  
7 月 11 日に奄美大島において確認されたのみで  
(Kamezaki et al., 2002), 非常に稀である. 一方,  
国内におけるオサガメの混獲や死亡漂着はいく  
つかの報告がある (石原, 2006; Kamezaki, 1998;  
Nishimura, 1964; 大池ほか, 2004; 堀越ほか,  
2002). しかしながら, 剖検所見について記載

された報告は大池ほか (2004) と石原 (2006)  
の 2 例のみで, さらに, これらの先行研究では  
内部 (内臓) 所見についての記載が乏しい. 内  
部所見については死亡漂着個体のほとんどが腐  
敗により記録困難な場合が多いが, 解剖所見等  
の個体情報の蓄積は本種の生物学的観点から意  
義深い. 本稿では, 2013 年 2 月 13 日, 沖縄県  
中頭郡嘉手納町兼久においてオサガメの死亡漂  
着が比較的新鮮な状態で確認され, 解剖調査に  
より体内外の所見が得られたので報告する.

方法

オサガメの死亡漂着は 2013 年 2 月 13 日に沖  
縄県中頭郡嘉手納町兼久において, 在日米陸軍  
基地管理本部により確認された (図 1, 2). 同  
日中に冷凍保管し, 2013 年 4 月 13 日に解凍後,  
外部計測および解剖を行った. 外部計測につい  
ては Bolten (1999) や Dunlap (1955) に従い,  
標準直甲長 (SCL) および直甲幅 (SCW), 標

<sup>1</sup> 琉球大学理学部海洋自然科学科生物系 E-mail; kazu\_0502\_let\_it\_be@yahoo.co.jp

<sup>2,3</sup> 一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究センター

準曲甲長 (CCL) および曲甲幅 (CCW), 頭尾長 (BL), および体重を計測した. その後, 外傷の有無を確認しながら解剖を行い, 生殖腺の観察, 消化管内容物の有無 (食道, 胃, 腸管) の記録を行った. さらに, 食道, 胃および腸管を 10% 濃度のホルマリンで固定した後に, 食道長 (EL), 胃長 (SL) および腸管長 (IL) を計測した. Bjorndal (1985) は腸管長と標準直甲長の比 (IL/SCL) を種別に報告している. しかしながら, メキシコ湾の漂着オサガメでは直甲長の記載がされていない (Dunlap, 1955). そこで, 本稿では Bjorndal (1985) の腸管長と標準直甲長の比を改良し, 食道, 胃, および腸管長それぞれと頭尾長の比 (それぞれ EL/BL, SL/BL, IL/BL) を, 本稿の結果と Dunlap (1955) の 2 例の結果で算出し比較した.



図 1. オサガメ漂着地  
Fig. 1. The stranded location of the leatherback turtle.



図 2. オサガメ漂着個体  
Fig. 2. A photograph of the stranded leatherback turtle.

### 結果および考察

表 1 に外部計測および解剖の結果を示した. 本個体からは未成熟の卵巣が確認された (図 3). また, 一度産卵を経験した個体は卵巣に白体を有するが (Miller and Limpus, 2003), 本個体では確認されなかった (図 3). さらに, 本個体の曲甲長は 1220mm であり (表 1), 太平洋に生息するオサガメの性成熟サイズ (平均曲甲長: 1445mm; Zug and Parham, 1996) よりも小さい傾向がみられる. したがって, 本個体は性的に未成熟である雌の個体である可能性が高い. 本個体には右体側から腹側にかけて平行な 2 本の裂傷痕が確認された (図 4). 大池 (2004) は愛知県知多群南知多町山海に漂着したオサガメから, 船舶のスクリューによると思われる裂傷痕を確認しており, 本個体の裂傷痕も船舶のスクリューによるものと思われる. ただし, この裂傷痕が生存中に受けたものであるか判断できなかった.

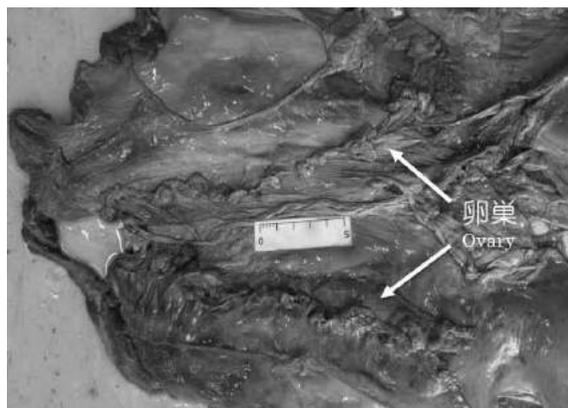


図 3. オサガメの卵巣  
Fig. 3. The ovary of the leatherback turtle.



図 4. 平行な 2 本の裂傷痕  
Fig. 4. Two laceration marks (parallel).

表 1. 外部計測及び解剖結果

Table 1. The results of external measurements and autopsy.

外部計測値 (mm)	標準直甲長 (SCL)	1140
	標準直甲幅 (SCW)	608
	標準曲甲長 (CCL)	1220
	標準曲甲幅 (CCW)	812
	頭尾長 (BL)	1429
体重 (kg)		113
内部計測値 (mm)	食道長 (EL)	1320
	胃長 (EL)	1720
	腸管長 (IL)	7025
	消化管長 (AL)	10065
消化管内容物	食道	無
	胃	ヒカリボヤの仲間, 人工物
	腸管	ヒカリボヤの仲間 (未消化)

胃の幽門部付近において、人工物により他の内容物が詰まっているようにも伺えたため、エサの消化吸収が妨害されていた可能性がある(図 5)。Mrosofsky (2008) は 123 年間 (1885-2007) にわたって集められた 408 個体のオサガメの剖検記録から消化管のプラスチックの有無を調べ、そのうちの約 34% の割合でプラスチックが検出されたことを報告している。また、Mrosofsky (2008) はプラスチックによって消化管を閉塞されることが死因となり、本種が減少する可能性を言及している。しかしながら、本個体では幽門部の炎症や閉塞等が確認されなかったため、人工物の誤飲が死因であるかは不明であった。

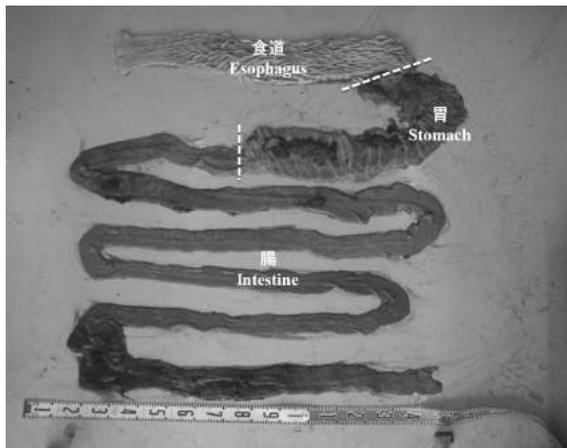


図 5. 食道と消化管内部

Fig. 5. The esophagus and gastrointestinal tract of the leatherback turtle.

本個体とメキシコ湾のオサガメ (Dunlap, 1955) における、頭尾長を用いて各消化管との比を表す数値を求めた (表 2)。これによると、

本個体とメキシコ湾のオサガメでは、EL/BL (沖縄 : 0.9, メキシコ 1.2) と SL/BL (沖縄 : 1.2, メキシコ : 1.3) の間にほとんど差がみられなかったが IL/BL に関しては、本個体のほうがメキシコ湾のオサガメより低い傾向がみられた (沖縄 : 4.9, メキシコ : 7.1)。これは本個体がメキシコ湾のオサガメより頭尾長に対して腸管長が短いことを示している。Bjorndal (1985) は、ウミガメ類の幼体期と成体期では、甲長に対して腸管長が長くなることを示している。また、本個体は未成熟のメスであるのに対し、メキシコ湾のオサガメは成熟したメスである。これらのことは、オサガメにおいても成長段階で腸管長が異なることを示している。これについては非常に興味深い知見ではあるが、北太平洋西部とメキシコ湾での地理的な違いである可能性もあるため、今後も引き続き本稿のような計測結果の蓄積が必要であろう。

表 2. 沖縄産とメキシコ湾産のオサガメの頭尾長 (BL) に対する各消化管の長さの比 EL : 食道, SL : 胃, IL : 腸の長さ

Table 2. Comparison of the ratio of the esophagus, stomach, and intestine length to the body length between the stranded leatherback turtle in Okinawa and Gulf of Mexico. EL, SL, and IL show esophagus, stomach, and intestine lengths, respectively.

	EL/BL	SL/BL	IL/BL
沖縄産 (Okinawa)	0.9	1.2	4.9
メキシコ湾産 (the Gulf of Mexico)※	1.2	1.3	7.1

※Dunlap(1955) より参照  
Data from Dunlap (1955).

<謝辞>

本個体を調査するにあたって琉球大学ウミガメ研究会ちゅらがーみー, および一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究センターの方々には様々な便宜を図っていただいた。また, 特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会の松沢慶将博士および, 在日米陸軍基地管理本部の池間朋子氏には, 漂着情報の連絡などご尽力頂いた。心より感謝いたします。

SUMMARY

We found a dead leatherback turtle at Kaneku, Kadena-tyo (26 ° 21' N, 127 ° 44' E), Okinawa Prefecture, Japan, in February 13, 2013. Straight carapace length, straight carapace width, and body weight of the leatherback were 1140 mm, 608 mm, and 113 kg, respectively. This individual was determined as an immature female because of its body size and undeveloped follicles. The leatherback had two deep lacerations on plastron and base of right front flipper (ventral side). Some pieces of plastic were in the turtle's digestive tract. In comparison with the ratio of esophagus, stomach, and intestine length to body length in Gulf of Mexico, this individual had lower ratio of the intestine length to its carapace length than that of the leatherbacks in the Gulf of Mexico.

<引用文献>

- Bjorndal, K. A. 1985. Nutritional ecology of sea turtles. *Copeia* 1985(3): 736-751.
- Bolten, A. B. 1999. Techniques for measuring sea turtles. *Research and Management Techniques for the Conservation of Sea Turtles* 4: 1-5.
- Chan, E. H. and H. G. Liew. 1996. Decline of the leatherback population in Terengganu, Malaysia, 1956-1995. *Chelonian Conservation and Biology* 2: 196-203.
- Dunlap, C. E. 1955. Notes on the visceral anatomy of the giant leatherback turtle (*Dermochelys coriacea*). *The Bulletin of the Tulane Medical Faculty* 14: 55-69.
- 堀越和夫・佐藤文彦・稲葉慎・中村幸弘・柴田博. 2000. オサガメの混獲事例 (小笠原諸島と新潟県). *ウミガメニュースレター* (44): 13.
- 石原孝・亀崎直樹・日下部要. 2006. 高知県室戸で捕獲されたオサガメ (*Dermochelys coriacea*) の解剖報告. *爬虫両棲類学会報* 2006(2): 114-116.
- 亀崎直樹. 1998. オサガメ. 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック (水産庁編). 244-245.
- 亀崎直樹. 2012. 進化. p.11-34. 亀崎直樹 (編) ウミガメの自然誌 産卵と回遊の生物学. 東京大学出版会, 東京.
- Kamezaki, N., K. Oki, K. Mizuno, T. Toji, and O. Doi. 2002. First nesting record of the leatherback turtle, *Dermochelys coriacea*, in Japan. *Current Herpetology* 21: 95-97.
- Hamann, M. and Limpus, C. J. 2003. Ontogeny of marine turtle gonads. p.199-224. In: Lutz, P. L., Musick, J. A., Wyneken, J. (Eds.), *The biology of sea turtles Volume II*, Boca Raton, Florida, CRC Press.
- Mrosovsky, N., G. D. Ryan, and M. C. James. 2009. Leatherback turtles: The menace of plastic. *Marine Pollution Bulletin* 58: 287-289.
- Nishimura, S. 1964. Consideration on the migration of the leatherback turtle in Japanese and adjacent waters. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory* 12: 61-73.
- 大池辰也・近藤鉄也・黒柳賢治. 2004. 知多半島に死亡漂着したオサガメ 2 例について. *ウミガメニュースレター* (62): 6-12.
- Spotila, J. R., A. E. Dunham, A. J. Leslie, A. C. Steyermark, P. T. Plotkin, and F. V. Paladino. 1996. Worldwide population decline of *Dermochelys coriacea*: are leatherback turtles going extinct? *Chelonian Conservation and Biology* 2: 209-222.
- Spotila, J. R., R. D. Reina, A. C. Steyermark, P. T. Plotkin, and F. V. Paladino. 2002. Pacific leatherback turtles face extinction. *Nature* 405: 529-530.
- Zug, G. R. and J. F. Parham. 1996. Age and growth in leatherback sea turtles, *Dermochelys coriacea* (Testudines, Dermochelyidae): a skeletochronological analysis. *Chelonian Conservation and Biology* 2: 244-249.

# 沖縄島で死亡漂着したクロウミガメ *Chelonia mydas agassizii* の消化管内容物

Gastrointestinal contents of a Black turtle (*Chelonia mydas agassizii*)  
stranded at Okinawa Island, Japan

木野将克<sup>1</sup>・前田好美<sup>1</sup>・河津 勲<sup>1</sup>

Masakatsu KINO, Konomi MAEDA and Isao KAWAZU

はじめに

クロウミガメ *Chelonia mydas agassizii* は、背甲、腹甲の黒味が強いことや甲羅の後縁が急激に細くなっていることが特徴である (図1) (亀崎, 2012; Marques, 1990; Pritchard, 1997). 形態学的にはアオウミガメ *Chelonia mydas mydas* と有意に差があるとされているが (岡本, 2011), 分子生物学的には別種とするには難しいとされている (Bowen et al., 1992; Karl et al., 1992). そのためクロウミガメについては、アオウミガメの亜種とするか独立種とするか、いまだに決着をみないのが現状である (亀崎, 2012).

クロウミガメは、バハカリフォルニア半島およびカリフォルニア湾からペルー南部の東太平洋を中心に生息している (Marques, 1990). 稀であるが、国内でもクロウミガメが確認されている (嘉陽ほか, 2003; 岡本, 2011; 黒柳・亀崎, 1998; 大牟田, 2005).

消化管内容物を調査することは対象種の食性を明らかにするとともに、その結果はその種の生息の指標にもなり得る (Bjorndal, 1997). 国内におけるクロウミガメの消化管内容物の報告は、黒柳・亀崎 (1998) によって西表島近海で捕獲されたクロウミガメからの糞から、藻類の断片を確認した程度であり、消化管内容物の記録としてはまだ不十分である. 筆者らは 2009 年 12 月 22 日に沖縄島で本種の死亡漂着を確認し、消化管内容物を調査する機会を得たのでここに報告する.

方法

2009 年 12 月 22 日に沖縄県国頭郡恩納村仲泊 (北緯 26 度 26 分, 東経 127 度 47 分) (図 2) の砂浜で、直甲長 587mm, 直甲幅 492mm, 体重



図 1. 沖縄県恩納村仲泊に漂着したクロウミガメの写真 (上と下の写真はそれぞれ前田好美, 木野将克によって撮影)

Fig. 1. Photographs of the stranded black turtle at Nakadomari, Okinawa Pref. (Photographs by Konomi Maeda (top) and Masakatsu Kino (bottom)).

26.8 kg のクロウミガメの死亡漂着を発見した (図 1). 死体は回収直後に冷凍保存し、2014 年 5 月 3 日に解剖した. 解剖では特に生殖腺 (卵巣) と消化管内容物 (食道, 胃, 腸管) の観察を行った. 海藻と海草の同定は大場・宮田 (2007) および吉田 (1998) に従った.

<sup>1</sup> 一般財団法人 沖縄美ら島財団 905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川 888; E-mail m-kino@okichura.jp  
Okinawa Churashima Foundation, 888 Ishikawa, Motobu, Okinawa 905-0206, Japan

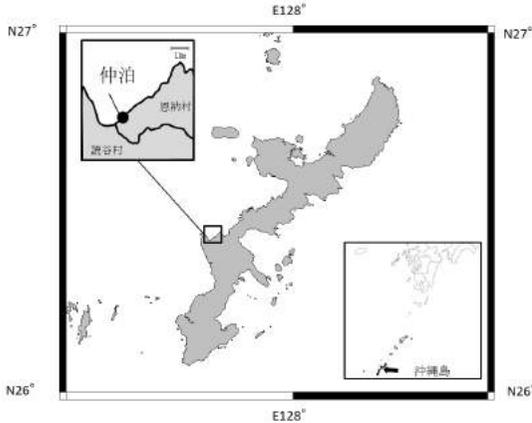


図 2. クロウミガメの漂着場所

Fig. 2. A map of Okinawa Island. The black dot indicates the location of stranding of the black turtle.

結果および考察

卵巣が外見判断より未熟であったことや、性成熟したクロウミガメの直甲長サイズが 600mm 以上であるという記録 (Hirth, 1997) から、本個体は性的に未成熟な雌であると判明した。また、食道および胃には大量の海草・海藻類が発見され (図 3, 4), 全消化管内容物の湿重量は 576g であった。そのうち海草類はアマモ科の一種 *Zosteraceae* sp., ベニアマモ科の一種 *Cymodoceaceae* sp. およびトチカガミ科の一種 *Hydrocharitaceae* sp. が確認され湿重量 486g (84.4%) であった。一方、海藻類は緑藻類のミル科の一種 *Codiaceae* sp. および紅藻類のテングサ科の一種 *Gelidiaceae* sp. が確認され湿重量 90g であった (図 5)。



図 3. クロウミガメの消化器 (木野将克撮影) A: 食道, B: 胃, C: 腸管

Fig. 3. A photograph of digestive organs of the black turtle (Photograph by Masakatsu Kino). A, B, and C indicate esophagus, stomach, and gut, respectively.

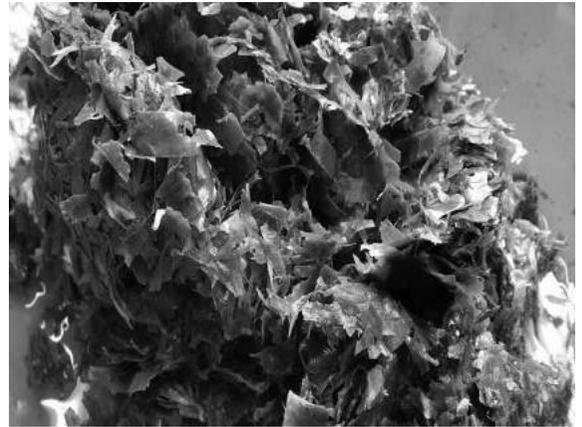


図 4. クロウミガメの消化管内容物 (海草・海藻類) (木野将克撮影)

Fig. 4. A photograph of gastrointestinal contents (seagrass and red algae) of the black turtle (photograph by Masakatsu Kino).

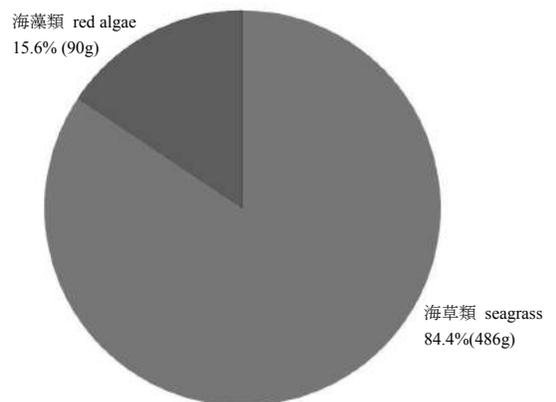


図 5. クロウミガメの消化管内容物の重量の割合

Fig. 5. Relative volume of gastrointestinal contents (seagrass and red algae) of the black turtle.

東太平洋のクロウミガメは、場所や時期によってはサルパやクラゲなどを摂餌することが確認されているが、大部分は藻類を摂餌する草食性である (Amorocho and Reina, 2007; Quinones et al., 2010; Seminoff, 2002)。本個体の消化管からも海草類や海藻類が多く認められ、沖縄島で確認された本個体の食性について特異性はみられなかった。一方で、亀田・石原 (2009) は八重山諸島周辺海域における漂着アオウミガメ 35 個体 (平均直甲長 483.9mm) の消化管内容物の調査を行い、総湿重量は 7697.2g であったと報告している。この結果から 1 個体あたりの平均湿重量を計算すると、219.9g となり、本研究のクロウミガメ (直甲長: 587mm) の消化管湿重

量 (576g) は明らかに重い。また、図 4 に示したように、本個体は満胃で食道にも多くの内容物が確認された。以上のことから、本個体が沖縄島周辺で十分な量の摂餌を行ったことは明らかであり、本亜種が当該海域に生息できる可能性を示唆する事例となろう。

これまでに日本ではクロウミガメの産卵は一例も確認されていないが、本亜種の国内での産卵を確認するには、直接産卵個体を観察するか、卵や産卵痕跡を他のウミガメ類と区別する必要がある。しかしながら、クロウミガメの卵の平均直径は 41.6mm で (Marquez, 1990)、アオウミガメ (44.9mm) より小さいが、アカウミガメ *Caretta caretta* のそれ (41.0mm) とほぼ同等である (松沢, 2012)。また、クロウミガメの産卵上陸時の足跡は左右対称であり、アオウミガメのそれと酷似する (Miller, 1997)。さらに、クロウミガメとアオウミガメの孵化幼体の形態は非常に似ている (Marques, 1990)。沖縄島ではアカウミガメおよびアオウミガメの産卵が多い (Kikukawa et al., 1999)。このため上陸痕跡、卵径、孵化幼体それぞれ単独ではクロウミガメの産卵を確認することは難しい。クロウミガメの国内での産卵を確認するためには、今後は産卵個体の直接観察や、先に述べた繁殖生物学的情報に注意を払い産卵痕跡調査を実施する必要がある。産卵痕跡調査の際、アオウミガメの様な足跡が残り、卵径がアカウミガメ卵大であった場合などでは孵化幼体の一定期間の飼育も必要と考えられる。

#### 謝辞

本個体の漂着情報は、沖縄県国頭郡恩納村仲泊在住の山内輝信氏より頂いた。本個体の解剖には、(一財) 沖縄美ら島財団総合研究センターの皆様や琉球大学ウミガメ研究会ちゅらがーみーの皆様にご協力頂いた。また、本稿で使用した引用文献を収集するにあたり、国際水産資源研究所の岡本慶博士にご協力頂いた。ここに深く感謝の意を表します。

#### 引用文献

- Amorochi, D. F. and R. D. Reina. 2007. Feeding ecology of the East Pacific green sea turtle *Chelonia mydas agassizii* at Gorgona National Park, Colombia. *Endang. Species. Res.* 3: 43–51.
- Bowen, B. W., A. B. Meylan, J. P. Ross, C. J. Limpus, G.H. Balaz, and J. C. Avise. 1992. Global population structure and natural history of the green turtle (*Chelonia mydas*) in terms of matriarchal phylogeny. *Evolution* 46(4): 865–881.
- Bjorndal, K. A., 1997. Foraging ecology and nutrition of sea turtles. p. 199–232. *In*: P. L. Lutz and J. A. Musick (eds.), *The Biology of Sea Turtles*. CRC Press, Inc., Boca Raton.
- Hirth, H. F. 1997. Synopsis of biological data on the green turtle *Chelonia mydas* (Linnaeus, 1758). U.S. Department of the Interior, Fish and Wildlife Service, Biological report 97(1).
- 亀田和成・石原孝. 2009. 日本沿岸におけるアオウミガメの消化管内容物. うみがめニュースレター (81): 17-23.
- 亀崎直樹. 2012. 第 1 章 進化-分類と系統. p. 11–34. 亀崎直樹 (編). *ウミガメの自然史*. 東京大学出版会, 東京.
- Karl, S. A., B. W. Bowen, and J. C. Avise. 1992. Global population genetic structure and male-mediated gene flow in the green turtle (*Chelonia mydas*): RFLP analyses of anonymous nuclear loci. *Genetics* 131(1): 163–173.
- Kikukawa, A., Kamezaki, N., and Ota, H. 1999. Current status of the sea turtles nesting on Okinawajima and adjacent islands of the central Ryukyu, Japan. *Biological Conservation* (87): 149–153.
- 嘉陽幸幸・平手康市・菊川章・若月元樹・亀崎直樹. 2003. 沖縄県北部の漁港に定住するウミガメ. うみがめニュースレター (56): 14.
- 黒柳賢治・亀崎直樹. 1998. 日本近海で初めて確認されたクロウミガメ. *エコロケーション* (59): 1–2.
- Marquez, R. 1990. *FAO species catalogue Vol.11: Sea turtles of the world*. FAO Fisheries Synopsis No. 125. FAO, Rome. 81p.
- 松沢慶将. 2012. 第 4 章 発生-卵から子ガメへ. p. 85–113. 亀崎直樹 (編). *ウミガメの自然史*. 東京大学出版会, 東京.
- Miller, J. D. 1997. Reproduction in sea turtles. p. 51–83. *In*: P. L. Lutz and J. A. Musick (eds.), *The Biology of Sea Turtles*. CRC Press, Inc., Boca Raton.
- 岡本慶. 2011. 日本沿岸におけるアオウミガメ属 *Chelonia* の形態変異と保全に関する研究. 東京大学修士論文, 東京.
- 大場達之・宮田昌彦. 2007. *日本海草図譜*. 北海道大学出版会. 北海道. 116p.

- 大牟田幸久. 2005. 漁網に絡まって屋久島前浜に漂着したクロウミガメ. ウミガメニュースレター (63): 2-3.
- Pritchard, P. C. H. 1997. Evolution, phylogeny, and current status. p. 1-28. In: P. L. Lutz and J. A. Musick (eds.), The Biology of Sea Turtles. CRC Press, Inc., Boca Raton.
- Quinones, J., V. G. Carman, J. Zeballos, S. Purca, and H. Mianzan. 2010. Effects of El Niño-driven environmental variability on black turtle migration to Peruvian foraging grounds. *Hydrobiologia*. 645: 69-79.
- Seminoff, J. A., A. Resendiz, and W. J. Nichols. 2002. Diet of East Pacific Green Turtles (*Chelonia mydas*) in the Central Gulf of California, Mexico. *J. Herpetol.* 36(3): 447-453.
- 吉田忠生. 1998. 新日本海藻誌. 内田老鶴圃. 東京. 1222p.

## SUMMARY

We analyzed gastrointestinal contents of a black turtle (*Chelonia mydas agassizii*) that stranded dead on 22 December 2009 at Nakadomari Beach (26° 26' N, 127° 47' E), Okinawa prefecture, Japan. The turtle was determined as an immature female based on examination of the gonads and its body size (straight carapace length – 587 mm, weight – 26.8 kg). The majority of gastrointestinal contents were collected from esophagus and stomach. The wet weight of the contents was 576 g, consisting of 486 g (84.4%) of seagrass (*Zosteraceae* sp., *Cymodoceaceae* sp., and *Hydrocharitaceae* sp.) and 90 g (15.6%) of red algae (*Codiaceae* sp. and *Gelidiaceae* sp.).

---

## 第25回日本ウミガメ会議 奄美大島会議 開催報告とお礼

Report and Thanks on the 25nd Japanese Sea Turtle Conference  
in Amamioshima

日本ウミガメ協議会 三根佳奈子  
Sea Turtle Association of Japan Kanako MINE

---

1990年、鹿児島で行われた第1回日本ウミガメ会議で、ウミガメの標識装着・計測方法が統一されてから四半世紀が経過しようとしている。第25回目となった本年は、2014年11月28日から30日にかけて奄美大島で開催され、全国のウミガメ屋や関係者250名が集結した。砂浜が点在している上に陸路の無い浜の多い奄美大島では、島全体のウミガメ上陸産卵状況のうち3割ほどしか把握されていなかったが、奄美海洋生物研究会の興克樹氏、水野康次郎氏の働きかけによって未調査であった約100浜で2012年より調査が行われ、2013年には奄美大島とその周辺の島々の状況が明らかになった。現地では、興氏、水野氏を中心に、奄美市役所の皆さん、奄美の自然と人に魅せられた地元の方々に会議を取り仕切っていただいた。

1日目は、米国海洋漁業局太平洋漁業研究センターのジョージ・バラーズ氏に主にハワイ諸

島のアオウミガメとその個体数回復についてお話いただいた。バラーズ氏は1978年に米国で絶滅危惧種に指定されたハワイのアオウミガメの生態研究・保全・教育啓発を行い、2011年にその指定解除に貢献するという偉業を成し遂げた、ウミガメ保全の第一人者である。今は、産卵が1万回以上に回復したが、1990年代には5000回を下回っていた日本のアカウミガメを知っている参加者にとっては、非常に興味深い話だったのではないだろうか。その夜には名瀬市唯一の飲み屋街、やんご通りへ繰り出し、年に一度の地元のお祭り「やんご祭り」とウミガメ会議がコラボレーションした「やんごウミガメ祭り」で飲み放題の黒糖焼酎を味わった。地元の皆さんも、「こんなにたくさんの人で賑わったのは初めて」と顔をほころばせていた。

2日目には、日本のウミガメの産卵状況が報告された。全国の産卵地ごとの上陸・産卵数の

変化をスライドで見ながら、調査をしている方々に現地状況をお話して頂いた。開催地である奄美大島からは、砂浜侵食などの問題の他に、外灯を赤色に変えることで子ガメへの影響が減ったことやウミガメに配慮した観察会など地域の人たちによる保護活動が報告された。午後のシンポジウムのテーマは「食害」。今、全国で哺乳類による食害が急が増えているため、興氏の提案により全国の状況を共有する目的としてこのテーマが選ばれた。愛知県遠州灘の表浜、和歌山県みなべ町、鹿児島県奄美大島、屋久島、沖縄県沖縄島、西表島での食害の報告を元に、各地域で取り組んでいる対策についても紹介された。動物の捕食シーンが大好きな私は、タヌキやイノシシ、アカマタがウミガメの卵を食べる映像について興奮してしまった。捕食することは自然に起こりうることはあるが、地域によってはその被害も大きいので、現状を詳しく調べ対策を行うべきであると議論された。

2日目と最終日には口頭発表15題、ポスター発表21題の発表があり、懇親会でも焼酎を交わしながら夜通しで活発に意見が交わされた。ウミガメ会議の参加者は「ウミガメが好きだから」、「個体数を回復させるため」、「代々受け継いできたから」など理由や目的は様々であろうが、全員がウミガメに魅せられた人たちであると感じた。ついつい飲みすぎてしまい、相変わらず、いい大人たちがへべれけになり、声はかれ、二日酔いになりながら翌日を迎えた。いい大人がだめになっていく姿があちこちで見られるのも、この会議のいいところだと思う。ウミガメネタを肴に黒糖焼酎と奄美の自然に酔った3日間であった。なお、バラーズ氏による特別講演、2014年の上陸・産卵、漂着、混獲情報や各発表の内容については日本ウミガメ誌2014にまとめられているので、是非ご一読いただきたい。

### 【予告】

第26回目のウミガメ会議は、九十九里浜の南端にあたる千葉県一宮町にて開催されます。一宮ウミガメを見守る会の皆さんをはじめ、一宮の自然を見つめてこられた皆さんと共に楽しい会議となるよう準備を進めてまいりますので、是非ご参加ください。

会議の開催・運営に際し、ご尽力いただいた実行委員の皆様、ウミガメ会議を歓迎して下さった奄美市や地元の皆様に感謝申し上げます。また、以下の皆様よりご寄付を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。

山下善幹、佐野純也、小林寛典、森昭紀、石川県漁業協同組合南浦支所、菊川章、黒柳賢治、河津勲、小林雅人、大野睦、渡部明美、川上孝子、朽見健一郎、亀井陽太郎、神畑浩子、栗村知里、太田尚子（順不同・敬称略）



特別講演をするジョージ・バラーズ氏



奄美市のやんご通りで行われた「やんごウミガメ祭り」



奄美群島での上陸・産卵報告発表の様子

## 2014年ウミガメ速報

### A Circular Notice on Sea Turtles in 2014

#### 日本ウミガメ協議会

#### Sea Turtle Association of Japan

(2014年内に寄せられたウミガメの産卵・漂着・混獲等の情報を掲載しています。そのため、2015年に配信された速報も一部含んでいます。)

#### ■ウミガメ速報14-6 (4/15)

\*\*\*\*\*  
匿名の方より (1/3)

本日1月3日午前、近くの砂浜をジョギング中に、打ち上げられたウミガメを見つけました。体長は30~40cmほどです。近づいても、動く気配はありませんでした。午後にもう一度確認しましたが、その場所から動いてはいませんでした。気になったので、ネットで調べていたところ、ウミガメ協議会を知り、情報提供のメールをしました。場所は、和歌山県田辺市の芳養漁港のすぐ南の小さな砂浜です。事務局より：写真を拝見したところアオウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
長岡市寺泊水族博物館 青柳彰様より (1/4)

荒木様より情報を受けていたオサガメについては確認、測定してきました。日時：2013/12/27、場所：長岡市落水海岸、サイズ：甲長134cm・甲幅67cm、状況：調査後腐敗が激しいため埋設処理いたしました。また、同じ12/27に稚アカウミガメが漂着・死亡個体が当館に持ち込まれました。場所：長岡市山田海岸、サイズ：甲長10.3cm・甲幅9.0cm・体重220g、まだ新鮮な死亡個体でした。

\*\*\*\*\*  
のとじま水族館 池口様より (1/7)

1/6、石川県七尾市大泊でアオウミガメの混獲がありました。甲長は40cmでした。

\*\*\*\*\*  
根上昌久様より (1/11)

ウミガメの漂着死体を見つけたのでご連絡します。館山市見物海岸の鳩山荘前、潮が満ちてきて波に洗われている場所です。事務局より：写真からアカウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
千葉県 飯泉大輔様より (1/13)

先日、磯釣りの際にウミガメの漂着死体を見つけ、知り合いからこちらに連絡すると良いと聞きご連絡させて頂きました。お役に立てれば幸いです。発見日：2014/1/11、発見場所：千葉県館山市洲崎（洲崎西港北側の磯）、甲羅の大きさ：35cm位。（頭の方から尻尾側まで）状態は日が経っているのか、頭部は眼球も喪失し、一部白骨化していました。甲羅も少し剥がれていて乾燥が進んでいました。腹側も見

ましたが、四肢も付いており大きな外傷は確認できませんでした。この辺りでは日中に海面に顔を出している光景をよく見ます。事務局より：写真を拝見したところアオウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
甌島漁協里本所様より (1/14)

12日にウミガメの混獲がありました。建て網での混獲で死んでいました。大きさは30cm位でした。タグはJP76204とJP7620#です。事務局より：小笠原海洋センターから放流したアオウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
下関市立しものせき水族館 井上美紀様より (1/15)

ウミガメのストランディング情報が2件ありましたのでご報告いたします。①発見日時：1月15日、発見場所：山口県下関市武久海岸、直甲長：82.2cm、直甲幅：61.2cm、種類：アカウミガメ、状態：海岸漂着、腐敗強度、白骨化進む、性別不明。②発見日時：1月15日、発見場所：山口県下関市武久海岸、直甲長：43.4cm、直甲幅：36.4cm、種類：アオウミガメ、状態：海岸漂着、腐敗強度、頭部なし、性別不明。スーパーの袋に入っていた。

\*\*\*\*\*  
すさみ海立エビとカニの水族館 平井厚志様より (1/18)

12月の混獲情報 (2件) をお送りします。①日時：2013/12/4、場所：和歌山県すさみ町平松、状況：イセエビ刺網にて、種：アオウミガメ、直甲長44.5cm、直甲幅38.6cm、体重12.4kg、状況：死亡、港で確認時瞳孔反応有。後肢わずかに動く。体温の上昇を試みるも30分後死亡を確認。外傷なし。②日時：2013/12/5、場所：和歌山県すさみ町里野、状況：イセエビ刺網にて、種：アオウミガメ、直甲長39.5cm、直甲幅34.4cm、体重7.2kg、状況：生存。外傷なし。標識を付けて放流。

\*\*\*\*\*  
千葉県 泰田智貴様より (1/18)

ウミガメのストランディングを確認しました。発見したのは2014/1/4です。場所は千葉県館山市洲崎洲崎灯台下の磯場です。満潮時にも水没しない、かなり奥に打ち上げられています。砂浜ではなく複雑に入り組んだ乾いた岩場の上になります。この近辺はウミガメの死体がとても多く上がります。この画像で分かるようであればウミガメの種類を教えてください。事務局より：写真よりアオウミガメでした。

\*\*\*\*\*

公益財団法人しまね海洋館 村上昌吾様より (1/18)

漂着情報がありましたのでご連絡します。発見日：2014/1/13、場所：大田市五十猛町 五十猛海水浴場東端。地元住民が知人より話を聞き確認(以前より漂着していたと思われる)。腐敗が進行し、頭部なし、白骨化している状態。写真を三瓶自然館サヒメルに持ち込み、サヒメルより当館へ連絡があった。甲長70cmほどのアカウミガメだと思われます。事務局より：写真を拝見したところアカウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
西表野生生物保護センター 日名耕司様より (1/19)

ウミガメの漂着個体(発見時生存→当日、死亡)が発見されたので報告します。発見日：2014/1/19、発見者：関東準之介、場所：沖縄県西表島野原崎から西部側の浜(GPS：N24.36581°E123.92819°)、種：アオウミガメ、標準曲甲長：11.4cm、最小曲甲長：11.3cm、曲甲幅：10.2cm、計測方法：メジャー。?発見時わずかに息が有ったので、センターに運ばれました。センターでよく見てみると、体中にオイルが付着していました。ぬるま湯と洗剤でオイルを取り除き、ぬるま湯内に置いておきましたが、死亡しました。

\*\*\*\*\*  
西表野生生物保護センター 日名耕司様より (1/19)

ウミガメの漂着個体(死亡)が発見されたので報告します。発見日：2014/1/11、発見者：深澤武さん、場所：沖縄県西表島西ゲータ橋河口(西部側) GPS：N24.39687°E123.85725°、アオウミガメ、標準直甲長：64.6cm、最小直甲長：63.0cm、直甲幅：55.0cm、\*頭部一部欠損。少し埋まっていたが、埋設はできていません。

\*\*\*\*\*  
沖縄県ホテル日航アリビラ 比嘉康裕様より (1/20)

ウミガメの死骸漂着について写真をお送りいたします。甲羅等をみるかぎりアオウミガメと思います。甲羅の直径は約60cmで、大きさ的にはまだ小さい方かなと感じます。また、特に目立った外傷はありませんでした。

\*\*\*\*\*  
高知県室戸基地 河野より (1/23)

椎名の方からストランディングの情報をいただいたので、調査して参りました。甲長が70cm代と大きなカメでしたので、その場で解剖を行いました。解剖を行っている時、空からカメ肉を狙うトンビ達。私が解剖している様子を堤防の上からじっと観察し、今か今かと肉を狙っている姿が怖かったです。日付：2014/1/22、場所：椎名食堂下の浜、種：アオウミガメ、雌雄：雌、サイズ：SCL720mm

\*\*\*\*\*  
鹿児島県 中村徳志様より (1/24)

ウミガメの混獲がありましたので、ご連絡します。発見日時：1/23、場所：南薩摩志笠砂(かささ)町のま岬、状況：伊勢エビ網にかかって死亡していた。タグ：ブルー-JPN91508、91507。前ヒレに一個ずつ着いていた。大きさ：甲長ではなく、全体の印象として50cmくらい。事務局より：鹿児島県の野間池の宮内さんが放流した個体でした。

\*\*\*\*\*  
西表野生生物保護センター 日名耕司様より (1/27)

ウミガメの漂着個体が発見されたので報告します。発見日：2014/1/27、発見者：井上ふみこ(地元)、場所：西表島高那海岸、種：アオウミガメ、標準直甲長：8.5cm(参考値)、\*計測方法：ノギス。?ほぼ骨と皮だけの状態ですので、計測値は参考値にして下さい。ちなみに、オイルなどは付着していませんでした。

\*\*\*\*\*  
オキナワマリリンリサーチセンター 小林利充様より (1/28)

昨年末から今年1月までのストランディングがありましたのでご報告します。場所は全て沖縄県国頭郡恩納村山田です。①日時：平成25年10月19日、状態：死亡、種類：不明。腐乱激しく判別できず。サイズ：甲長35.5cm、甲幅30.1cm、②日時：平成25年10月20日、状態：発見時は生存していたが死亡した。種類：アカウミガメ、サイズ：甲長7cm、甲幅6.5cm、体重71g、③日時：平成25年10月21日、状態：死亡、種類：アオウミガメ、サイズ：甲長40.1cm、甲幅35cm、④日時：平成26年1月24日、種類：アオウミガメ、サイズ：甲長49cm、甲幅40cm。\*\*\*\*\*  
長崎県平戸市役所 森博も様より (1/28)

先週木曜日(1月23日)夕方4時頃市民の方から「海がめが海岸に打ちあがっているの、助けて欲しい。まだ生きているかも!」という連絡があり、さっそく現地へ向かいましたが、残念なことに、海がめは、すでに死亡しておりました。事務局より：写真を拝見したところアカウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
中嶋舞様より (1/28)

福岡県糸島市の海で、白骨化した海亀の死骸を見つけました。

\*\*\*\*\*  
高知県室戸基地 河野より (1/30)

夕方、三津在住の戎井まさのりさんからストランディング情報の連絡を受けました。この方はいつも三津にある丸山地先海岸でストランディングがあると連絡をして下さる方です。大きな個体でしたので、その場で解剖を行っている時、またしてもトンビ達が上空を飛び回りカメ肉を狙っていました。今回はトンビだけでなくカラスもやってきて、日が沈む時間帯なのに、カラスは山に帰らず石の上に立って肉を狙っていました。襲われなくて良かったです。私がストランディング死体になるかと思いました。日付：2014/1/30、場所：三津丸山地先海岸、種：アオウミガメ、雌雄：雄、サイズ：SCL776mm

\*\*\*\*\*  
鹿児島県 いわなが様より (2/4)

ウミガメの混獲が2例同時にありました。発見日時：2/2 午後8時頃、発見場所：長崎県野母崎町大立神の磯。状況：3-4mの建て網に混獲。①青96103、96104。生きていたので、タグをハサミでとり放流。②タグは付いていたが番号を確認せずに、その場で放流。大きさ：2頭とも、見た目70cmくらい。ここ20年くらいは冬場にウミガメをみることはなかった

けど、昨年から急によく見かけられるようになった。事務局より：標識から1個体は鹿児島県野間池で放流されたアオウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
神代丸水産 これさわ様より(2/6)

ウミガメの混獲がありました。場所：宮崎県日向市。標識：JP26561(白) 定置網への混獲(細嶋の先の飛島の先に設置している定置)生きていたので、そのまま放流大きさは1mぐらいで痩せ気味でした。\*\*\*\*\*

高知県 河野様より(2/11)  
ウミガメが2個体打ち上がっていました。場所は室戸市の室戸岬中学校の体育館裏の海岸です。10m位しか離れてなかったので、移動して並べて撮影しました。事務局より：写真を拝見したところ2個体ともアオウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
沖縄県 藤原笑子様より(2/14)

今年初めての漂着亀を確認しましたのでご報告いたします。場所は宮古島浦底漁港の隣のビーチで時間は13時くらい、ちょうど大潮の干潮でした。大きさは約1mです。この所しばらく荒れていましたので漂着したようです。事務局より：写真を拝見したところアオウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
伊豆大島 成瀬裕昭様より(2/27)

昨年12月18日に撮影された元町漁港沖の腫瘍アオウミガメの死体写真をお送りしましたが、2月1日に砂の浜海岸も腫瘍のアオウミガメが漂着しましたのでお知らせします。サイズは似ていますが、腫瘍の状態が違うので別個体ようです。随分痩せていました。事務局より：写真を拝見したところアオウミガメでした。国内のアオウミガメで腫瘍は八丈島が多いのですが、伊豆大島でも見る頻度が高くなっているのでしょうか。少し気になるところです。

\*\*\*\*\*

■ウミガメ速報14-7(4/18)

\*\*\*\*\*  
京都府 琴引浜鳴き砂文化館様より(3/22)

3月22日 京都府京丹後市琴引浜にアカウミガメが衰弱して漂着しているとの連絡があり、神戸市立須磨海浜水族園が搬入しました。事務局より：神戸市立須磨海浜水族園によると漂着していたのは、直甲長760mmのアカウミガメでした。時折首を持ち上げるが、基本的にはあまり動かない状態でした。

\*\*\*\*\*  
北海道 北海道海鳥センター 長谷部様より(3/28)

3月27日 北海道留萌市礼受でウミガメ死体の発見の情報ありましたので、ご連絡します。雪の中から出てきたため、いつ漂着したかは不明です。事務局より：写真を拝見したところアカウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
沖縄県 嘉陽宗幸様より(3/30)

3月30日 国頭群国頭村安田の浜にて、今年初のウミガメの産卵がありましたので報告します。3月17日に琉球大学の学生と共に調査し、海から砂浜まで同

じ道のりを5回たどったと思われる足跡を発見しました。その日は産卵を確認できませんでしたが、30日に再調査して卵を確認しました。

\*\*\*\*\*  
沖縄県 沖縄クリーンコーストネットワーク 宮本利彦様より(4/1)

3月30日 沖縄県南城市玉城中山510付近の海岸にて漂着死体を発見したので、ご報告します。比較的新しく感じましたが、死骸は膨らんでおり、腐敗臭もひどくハエもたかっていたのであまり近寄れませんでした。事務局より：写真を拝見したところアオウミガメでした。琉球大学ウミガメ研究サークル「ちゅらがーみー」が調査しました。漂着していたのは、アオウミガメのメスで、大きさは直甲長828mm、直甲幅 584mm、特に目立った外傷はありませんでした。胃内容物は海草のみでした。なお、標識はついていませんでした。

\*\*\*\*\*  
沖縄県 西表野生生物保護センター 日名耕司様より(4/9)

4月8日 西表島ホネラ海岸にてウミガメの漂着個体(死亡)が発見されたので報告します。種類はアオウミガメ、標準曲甲長：870mm、最小曲甲長：865mm、曲甲幅：805mmでした。計測方法はメジャーです。

\*\*\*\*\*  
福岡県 福津市地域生活部うみがめ課 石津芳恵様より(4/10)

4月8日 福津市勝浦浜海岸にてアオウミガメのストランディングがありましたので、報告します。福津市民より勝浦浜海岸にウミガメの死体が漂着しているとの通報があり、現場を確認しました。死体は腐敗が進んでおり、頭部は残っていたものの後脚が欠損していました。アオウミガメは、直甲長438mm、直甲幅358mmでした。なお、標識はついていませんでした。

\*\*\*\*\*  
鳥取県 鳥取県立博物館 一澤圭様より(4/10)

4月10日 琴浦町赤碕の菊港近く「菊姫橋」から西に10mほどの地点の岸壁下にてウミガメが漂着しているとの連絡がありましたので、報告します。漂着していたのは、ヒメウミガメで直甲長575mm、直甲幅529mmでした。ノギスは使わずメジャーと棒を用いて計測しました。

\*\*\*\*\*  
沖縄県 沖縄県宮古島市来間島 清水靖様より(4/14)

4月12日 来間港西側のモズク養殖網の下にてウミガメの死体を発見しました。網の下に入ってしまったカメが出られなくなり窒息死したものと思われます。体長は目測で500mm~600mmくらいでした。事務局より：写真を拝見したところアオウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
沖縄県 西表野生生物保護センター 日名耕司様より(4/14)

4月13日 西表島古見赤石の北にてウミガメの漂着が発見されたので報告します。種類はアオウミガメ、

標準曲甲長：450mm、最小曲甲長：440mm、曲甲幅：440mmでした。計測方法はメジャーです。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報14-8 (5/9)

\*\*\*\*\*

鹿児島県 アサクラミツオ様より (4/12)

3月15日 鹿児島県日置市吹上浜にて漂着しているウミガメを発見したので連絡します。なお、標識がついていました。事務局より：標識番号を確認したところ、2012年8月9日 鹿児島県南さつま市野間池しらせ定置網より放流したアオウミガメでした。放流時のサイズは、甲長626mm、甲幅485mmでした。

\*\*\*\*\*

黒潮生物研究所 岩瀬文人様より (4/16)

4月15日 和歌山県白浜町島島にて死亡したアオウミガメの未成個体が岩礁海岸に打ち上がっていたので報告します。なお、標識等はありませんでした。

\*\*\*\*\*

下関市立ものせき水族館 海響館 柿野敦志様より (4/20)

3月16日 山口県下関市豊北町神田の神田小学校裏にある海岸にてタイマイが衰弱し、漂着していました。その後海へ帰りました。3月21日 神田小学校裏の同じ海岸にタイマイが漂着していると連絡がありました。先日、海に帰した個体と同じだと思います。

\*\*\*\*\*

黒島研究所 亀田和成より (4/23)

4月23日 沖縄県西表島の南側でアカウミガメの交尾を目撃しました。場所はウブ浜とサザレ浜のちょうど中間あたりで、岸から500mほどのところでした。見つけてから数分は浮いていましたが、船が近づいたためなのか海に潜りそのまま浮上しませんでした。まだ周辺の砂浜では産卵を確認していないので、これからの産卵に備えた交尾なのでしょうか。

\*\*\*\*\*

沖縄県本部町 安里由仁様より (4/25)

4月25日 早朝、本部町具志堅の浜を歩いていた金城邦亮さんからアカウミガメを発見したとの連絡をもらいました。砂浜に駆け付けたところアカウミガメは、7時すぎまで浜に留まっていた。フジツボの位置から昨年みたアカウミガメとは違いました。夕方、琉球大学ウミガメ研究会ちゅらが一みーの佐久本さんや沖縄本島査をしていた黒島研究所の若月と産卵巣を確認したところ、134個確認することができました。より多くの産卵があるよう浜の清掃活動などを頑張りたいと思います。

\*\*\*\*\*

鹿児島県 瀬戸山様より (5/6)

鹿児島県南九州市頰娃 馬渡川付近の砂浜を散策中、漂着しているウミガメを発見したので報告します。かなり腐敗が激しい状態でした。標識は確認していません。

\*\*\*\*\*

沖縄県 国頭村 嘉陽様より (5/7)

5月3日に国頭村伊江海岸でウミガメの上陸跡を見つけましたが、あきらかに普通のアカウミガメの足跡とは違っていました。きっと、足を怪我したウミ

ガメだろうと思い、5月5日の早朝に海岸に行ったところ、産卵が終わり、海に帰るところでした。そのウミガメは右後ろの甲が半円状にかけて、右足もほとんどありませんでした。サメに咬まれたのだと思います。産卵巣の深さは他のウミガメより少し浅いぐらいで、あまり違いはないように感じました。

#### ■ウミガメ速報14-9 (5/23)

\*\*\*\*\*

高知県 中央東土木事務所 谷内剛様 (5/1)

5月1日 高知県南国市浜改田海岸にてウミガメが漂着していたと南国市浜改田在住の方から連絡を受けましたので報告します。事務局より：漂着していたのは、甲長809mm、甲幅609mmのメスのアカウミガメでした。死体の腐敗は進んでいないが、体内にガスが溜まり全体的に膨れている状態でした。

\*\*\*\*\*

美ら島財団 河津勲様より (5/7)

5月7日 沖縄県国頭郡国頭村の定置網でアカウミガメの混獲があったと漁師の方から、連絡を受けましたので報告します。右前肢に黄色いタグがついており、標識番号は56723とのことでした。確認後に放流してしまったそうです。事務局より：2013年7月4日に国頭の謝敷から放流した個体でした。放流時は、アルゴスを装着していたそうです。

\*\*\*\*\*

兵庫県 西野恵介様より (5/9)

5月9日 兵庫県南あわじ市土生の定置網にてアカウミガメが溺死していたので連絡します。事務局より：アカウミガメは、ガスがたまる程度に少し腐敗していました。解剖したところ、性別はオスでした。胃には何もなかったが、腸内にヒカリボヤがありました。大きさは、甲長756mm、甲幅753mmでした。

\*\*\*\*\*

NPO法人カイフネイチャーネットワーク 浅香新八郎様より (5/11)

3月3日 徳島県海部郡牟岐町牟岐浦字浜崎西の浜にて漂着したアオウミガメを発見したので連絡します。メジャーで大きさを測定したところ甲長480mm、甲幅400mmでした。なお、標識はありませんでした。5月11日 海部郡牟岐町牟岐浦字羽島洲鼻にて漂着したアオウミガメを発見したので連絡します。こちらもメジャーで大きさを測定したところ甲長450mm、甲幅380mmでした。標識はありませんでした。こちらの個体は腐敗のため内臓などが全くありませんでした。漂着後、長時間経過していると思われる。甲羅の破損状態から金属製の物で強打している様に見える。

\*\*\*\*\*

(株)ヨロン 関口様より (5/11)

5月11日 鹿児島県与論島にてウミガメが初産卵したので、報告します。黄色のタグを新しく装着しましたが、小さい2cmくらいの金属のタグも付いていましたが、ウミガメが暴れたため数字を読み取れませんでした。黄色いタグに比べて、金属のタグは数字を読み取りにくく感じました。今年は、例年よりも産卵が少し早い気がします。

\*\*\*\*\*

GLASS FISH 大場匠様より (5/12)

5月11日 千葉県南房総市千倉町白子2616-1にて漂着したウミガメを発見したので連絡しました。標識がついていたので連絡することができました。その他に海の中に生きて個体が1頭いました。事務局より：標識番号を確認したところ、漂着したウミガメは2012年5月11日高知県室戸市高岡漁港より放流したアオウミガメでした。放流時のサイズは甲長476mm、甲幅401mmでした。

\*\*\*\*\*  
室戸ジオパーク推進協議会 古澤加奈様・白井孝明様より (5/13)

5月13日 高知県室戸市三津丸山地先海岸にてウミガメが2頭漂着していたので連絡します。事務局より：2頭ともにアオウミガメでした。大きさは、それぞれ甲長698mm、甲幅520mmと甲長426mm、甲幅343mmでした。2頭とも白骨化していました。

\*\*\*\*\*  
甲浦港組合 山本様 (5/14)

5月14日 高知県安芸郡東洋町甲浦港にてウミガメの混獲があったため連絡しました。ウミガメは生きており標識がついていました。事務局より：甲長405mm、甲幅308mmのアオウミガメでした。標識はインコネル90906、プラスチックタグ96681でした。標識番号を確認したところ、2014年4月28日室戸市椎名漁港の朝持ちにて混獲され、2014年5月8日高岡漁港より放流した個体でした。放流時のサイズは甲長403mm、甲幅308mmでした。

\*\*\*\*\*  
東京都 森田完様より (5/18)

5月18日 茨城県神栖市波崎シーサイドパークにて漂着したアカウミガメを発見したので連絡します。頭と甲羅は白骨化していました。

\*\*\*\*\*  
高知県 山下やえ様より (5/20)

5月20日高知県室戸市元浜海岸にて漂着したウミガメを発見したので連絡します。事務局より：漂着していたのは甲長719mm、甲幅580mmのアカウミガメのメスでした。

■ウミガメ速報14-10 (6/9)

\*\*\*\*\*  
岡山県 おおもり様より (5/19)

5月19日 岡山県倉敷市児島塩生 サノヤス造船水島製造所付近にて漂着したウミガメを発見しました。腐敗はしておらず、頭にスクリューのような傷がありました。事務局：岡山理科大学の学生に調査に行ってもらいました。漂着していたのは甲長733mm、甲幅614mmのオスのアカウミガメでした。消化管内容物はありませんでした。なお、標識がついており確認したところ2014年5月5日に徳島県海部郡美波町日和佐大浜海岸から放流した個体でした。放流時の大きさは甲長760mm、甲幅608mmでした。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 岡田真人様より (5/20)

5月3日 千葉県館山市伊戸海岸にてウミガメの骨を1つ拾いました。5月4日 同じく伊戸海岸にてウミガメの骨を3つ拾いました。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 石井様より (5/24)

5月24日 神奈川県三浦市南下浦町毘沙門 盗人狩にて漂着したウミガメを発見したと地元の方から連絡がありました。5月27日 神奈川県鎌倉市由比ヶ浜にて漂着したウミガメを発見しました。

\*\*\*\*\*  
みなべ町教育委員会 教育学習課 前田一樹様より (5/26)

5月26日 和歌山県日高郡みなべ町堺地内森の鼻にて漂着したアカウミガメを発見しました。

\*\*\*\*\*  
千葉県 宮崎様より (5/27)

5月27日 千葉県富津市新舞子海岸にて漂着したウミガメを発見しました。事務局より：エバーラスティング・ネイチャーが調査にいきましたが、既に市役所が埋設していたそうです。

\*\*\*\*\*  
SOHO TIGRE 尾崎みお様より (5/27)

5月27日 神奈川県城ヶ島馬の背洞門付近の浜にて漂着したウミガメを見つけました。近くで確認してはいませんが、70cm~80cm位の大きさだと思えます。

\*\*\*\*\*  
千葉県 山口昌幸様より (5/27)

千葉県館山市市川名どんどん川の河口にて漂着したウミガメを発見しました。

\*\*\*\*\*  
長崎県生月漁業協同組合 今野様より (5/28)

5月27日 長崎県平戸市生月町御崎の沖合の定置網にてウミガメの混獲がありました。なお、ウミガメは生きており標識がついていました。標識番号を確認した後、海に放流しました。事務局より：標識番号を確認したところ、2014年2月24日鹿児島県野間池から放流した個体でした。放流時のサイズは甲長983mm、甲幅763mmでした。

\*\*\*\*\*  
鹿児島県 くぼ様より (5/29)

5月22日 鹿児島県薩摩川内市里町里の甕島の漁師の方から定置網の中でウミガメが死亡していると連絡を受けました。ウミガメはかなり腐敗していたため標識だけ取り外し、海に投棄したそうです。大きさは甲長か全体なのか分かりませんが150cmくらいあったそうです。取り外した標識は事務局のほうに郵送するとのことでした。

\*\*\*\*\*  
兵庫県 吉村かつゆき様より (5/31)

5月22日 兵庫県飾磨郡家島町大コ島の南の沖にて二艘の船で引き網をしていたところウミガメがかかりました。なお、標識がついていましたが番号は確認していません。ウミガメは元気だったのでそのまま海に放流しました。

\*\*\*\*\*  
大分県 おおはま様より (6/1)

6月1日 大分県大分西漁港のテトラポットにて漂着したウミガメを発見しました。事務局より：調査はおおいた環境保全フォーラムがむかいました。甲長760mm、甲幅510mmのアカウミガメでした。甲羅

の右後ろが欠けていました。腐敗がかなり進んでいたとことです。調査後は近くの浜に埋葬したとのことでした。

\*\*\*\*\*  
中土佐町役場町民環境課 山中直人様より (6/2)

5月26日 高知県中土佐町上ノ加江塩浜海岸にて漂着したアオウミガメを発見しました。腐敗しており、頭は骨が見えていました。大きさは甲長420mm、甲幅340mmでした。計測後、埋設しました。

\*\*\*\*\*  
沖縄県 嘉陽宗幸様より (6/3)

6月3日 今のところ沖縄島北部では、ウミガメの産卵の出足が悪いようです。昨年と同じ時期に比べて、産卵数はまだ3分の1強程度しかありません。また例年であれば産卵間隔は2週間程度ですが、19日間もかかっています。海水温が例年に比べて随分低い値で推移していますが、影響しているのでしょうか。

\*\*\*\*\*  
千葉県 匿名希望様より (6/3)

6月3日 千葉県館山市塩見海岸にて漂着したウミガメを発見したと知人から連絡がありました。大きさは1mくらいとのことでした。

\*\*\*\*\*  
日本ウミガメ協議会室戸研究基地より (6/4)

6月4日 高知県室戸市椎名漁港にて混獲がありました。甲長852mm、甲幅654mmのメスのアカウミガメでした。アカウミガメは生きており標識を確認したところ2010年6月18日に高知県室戸市三津漁港から放流した個体でした。また、エコーで調べたところ卵巣と卵殻を確認することができました。

\*\*\*\*\*  
日和佐ウミガメ博物館カレッタ 田中宇輝様より (6/4)

6月3日 徳島県海陽町鞆浦漁港の定置網にてウミガメが混獲していると漁師の方から連絡がありました。なおウミガメは生きていました。混獲していたのは甲長717mm、甲幅571mmのアオウミガメでした。標識がついていました。計測後、海に放流しました。事務局より：標識番号を確認したところ2014年1月28日高知県室戸市三津漁港から放流した個体でした。放流時の大きさは甲長719mm、甲幅573mmでした。

\*\*\*\*\*  
香川県 櫃本洋平様より (6/6)

6月5日 香川県丸亀市沖合で底引き網をしていたところウミガメが網にかかりました。なお、標識がついていました。刺し網漁の時間でしたので、他の網にかかったら大変だと思い離れた場所にある櫃石島付近で放流しました。事務局より：標識番号を確認したところ2014年5月12日高知県室戸市から放流した個体でした。放流時の大きさは甲長792mm、甲幅626mmでした。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報14-11 (6/9)

\*\*\*\*\*  
大阪府泉大津市 漁師様より (6/3)

6月3日 大阪府泉大津市にてウミガメの混獲があ

りました。事務局より：網にかかっていたのは甲長864mm、甲幅669mmのアカウミガメでした。アカウミガメは生きており元気でした。6月4日に神戸市立須磨海浜水族園によって神戸空港西緑地のラグーンに放流しました。

\*\*\*\*\*  
和歌山県 那智勝浦町宇久井港協様より (6/3)

6月3日 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町宇久井港の定置網にてアカウミガメの混獲がありました。標識が2つついていました。プラスチックの標識は番号を読み取ることができたのですが、金属の標識は数字が見えにくく読み取ることができませんでした。アカウミガメは元気だったので標識を確認した後、海へ放流しました。なおプラスチックタグの番号は96307でした。事務局より：標識番号を確認したところ、2013年6月21日高知県室戸市高岡漁港から放流した個体でした。放流時のサイズは甲長747mm、甲幅543mmでした。

\*\*\*\*\*  
京都府 前野耕太郎様より (6/5)

6月5日 京都府与謝郡伊根町亀島付近の磯にて漂着したウミガメを発見しました。体長は700mm～800mm程の大きさでした。なお、かなり腐敗している状態でした。

\*\*\*\*\*  
美ら島財団 河津勲様より (6/6)

6月6日 沖縄県うるま市石川ビーチでウミガメの死亡漂着がありました。調査に向かいましたが、石川警察署がウミガメを埋設してしまっただけでした。話を聞くと16736と数字の書いた黄色い標識がついており、直甲長が70cmだったとのことでした。

\*\*\*\*\*  
南あわじ市土生定置網漁業者 西野恵介様より (6/8)

6月8日 兵庫県底定置南あわじ市土生の定置網にて死亡したアカウミガメを発見しました。また、5月末から6月初旬に今回の個体よりも一回りほど大きなアカウミガメの混獲がありました。大きくて船に上げられなかったため、網から外しそのまま放流しました。事務局より：石原が調査に向かいました。アカウミガメの大きさは甲長757mm、甲幅608mmでした。

\*\*\*\*\*  
高知県海洋深層水研究所 林様より (6/9)

6月9日 高知県室戸市室戸岬町の高知県海洋深層水研究所の裏の海岸にて漂着したアカウミガメを発見しました。甲長は733mm、甲幅は616mmでした。頭部から腐敗が進んでおり、頭骨が見えていました。また、体内にガスがたまり全体的に膨れていました。調査後、浜に埋設しました。

\*\*\*\*\*  
新潟県農林水産部水産課 野瀬哲様より (6/9)

5月26日 新潟県村上市沖合水深約75mの海域で小型底引き網漁船を操縦していた漁師さんからウミガメを混獲したと連絡がありました。ウミガメはすでに死亡しており腐敗がひどかったため標識のみ取り外し海に投棄したとのことでした。なお標識番号は34047です。事務局より：標識番号を確認したところ、標識番号を確認したところ、城崎マリワールドさ

んから2013年10月1日に放流されたアオウミガメでした。放流時の体重は68kgでした。

\*\*\*\*\*  
西表野生生物保護センター 日名耕司様より(6/10)

6月10日 沖縄県西表島 祖納の古見さんから連絡があり西表島民宿あけぼの館裏の海岸でウミガメの上陸跡を発見したと連絡がありました。この浜では20年ぶりのウミガメの上陸跡です。足跡を見たところ、アオウミガメでした。産卵はしていません。足跡は6月5日に見つけたのでそれ以前に上陸していると思われます。島の北側のミミキリ浜は、例年ウミガメが上陸しに来る時期ですが、今年はまだ確認していません。更に、6月5日 南風見田から鹿川にかけてカヤックで往復する間の海の上で、浮上するウミガメを15頭確認したと連絡もありました。

\*\*\*\*\*  
高知県 戎井まさのり様より(6/11)

6月11日 高知県室戸市三津丸山地先海岸にて漂着したウミガメを発見しました。事務局より：甲幅570mmのアカウミガメでした。喉の腐敗が酷く進み、体内にガスが溜まっていたため甲幅のみ測定しました。測定後、浜に埋設しました。

\*\*\*\*\*  
兵庫県 西野恵介様より(6/12)

6月12日 兵庫県南あわじ市土生の定置網にてアカウミガメの混獲がありました。

\*\*\*\*\*  
鹿児島県丸世大吉漁業生産組合 中尾雄作様より(6/14)

6月12日 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦1番地先の定置網にて標識のついたアカウミガメが掛かっていたので報告します。番号は79146でした。6月13日

同じ定置網にて標識のついた別のアカウミガメがかかりました。番号は39734がついていました。2頭とも標識番号を確認した後、放流しました。事務局より：標識番号を確認したところ1頭目標識番号79146は2012年7月6日に宮崎野生動物研究会さんが宮崎県松崎海岸から放流した個体でした。放流時のサイズは甲長873mm、甲幅675mmでした。2頭目は現在番号の確認を行っています。

\*\*\*\*\*  
春野の自然を守る会 熊沢佳範様より(6/16)

6月16日 高知県春野海岸にて上陸しているアカウミガメのメスを発見しました。なお、番号96723の標識がついていました。事務局より：標識番号を確認したところ2014年5月30日高知県室戸市高岡漁港から放流した個体でした。放流時のサイズは甲長830mm、甲幅634mmでした。

\*\*\*\*\*  
山口県水産振興課 三好博之様より(6/16)

6月13日 山口県萩市嫁泣漁港にて漂着したウミガメを発見したと地元の漁業協同組合職員から連絡がありました。甲長470mm、甲幅340mmのアオウミガメでした。なお、標識が付いていました。標識番号43218を確認した後、埋設しました。事務局より：標識番号を確認したところ、2012年6月13日に山口県関市豊浦町川棚支店の建網で混獲された後、放流した

個体でした。

\*\*\*\*\*  
明石市役所 川井祐輔様より(6/16)

6月16日 兵庫県明石市明石川の河口にある望海浜でウミガメの上陸跡を発見したと海浜植物を観察に来た小学校教諭の福島秀毅様より連絡がありました。確認したところ、産卵しているかどうかはまだわかりません。事務局より：明石市役所の川井さんや神戸市立須磨海浜水族園の大鹿さんと現場を確認にいき、産卵していることを確認しました。明石市での上陸・産卵は2008年以来6年ぶり、関係者は「これから大変になるな」とぼやきつつも、一様に爽やかな笑顔を浮かべていました。また、産卵のあった砂浜はハマボウフウやコウボウムギなど、海浜植物も豊かな良い砂浜で、産卵巣はそのままの場所で見守っていくこととなります。

\*\*\*\*\*  
静岡県 西元勇人様より(6/17)

6月16日 静岡県御前崎市御前崎海岸にて漂着したアオウミガメを発見しました。腐敗しておりハエが集まってきたいました。頭が半分ほどなくなっていました。他に目立った外傷はありませんでした。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報14-12(7/15)

\*\*\*\*\*  
神奈川県 渡邊久智様より(6/21)

6月21日 神奈川県小田原市小八幡海岸にて漂着したアカウミガメを発見しました。

\*\*\*\*\*  
静岡県 匿名の方より(6/22)

6月22日 静岡県湖西市の松山海岸にてアカウミガメの産卵を発見しました。松山神社駐車場の階段から左に100m程の砂浜で産卵していました。アカウミガメは産卵後、無事に海に帰って行きました。卵はそのまま埋まっています。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 山室かずのり様より(6/23)

6月22日 神奈川県小田原市小八幡海岸にて漂着したアカウミガメを発見しました。腐敗が進んでおりあまり近づきませんでしたが、甲長は目測で750mm~800mmくらいでした。なお、標識はついていませんでした。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報14-13(7/22)

\*\*\*\*\*  
奄美大島渡連キャンプ場より(6/17)

6月16日 鹿児島県奄美大島竜郷町秋名の浜にてアカウミガメの上陸と産卵を発見しました。左前肢に黄色い標識がついていましたが、番号を読み取ることはできませんでした。

\*\*\*\*\*  
田代浜ウミガメ保護監視員より(6/20)

6月13日 鹿児島県屋久島田代浜にてアカウミガメの上陸を発見しました。73757の青い標識が右後肢についていました。事務局より：標識番号を確認したところ、2010年6月29日に高知県室戸市三津漁港から

放流した個体でした。放流時の大きさは甲長835mm、甲幅655mmでした。

\*\*\*\*\*  
屋久島うみがめ館より（6/20）

6月7日 鹿児島県屋久島前浜にてアカウミガメの上陸と産卵を発見しました。97227の標識と97228の標識が一つになって装着されていたので、取り外し新しいタグを装着しました。事務局より：標識番号を確認したところ、2014年5月6日鹿児島県種子島から放流した個体でした。放流時の大きさは甲長910mm、甲幅680mmでした。

\*\*\*\*\*  
大阪府 池田哲哉様より（6/22）

6月21日 徳島県鳴門市の島田島瀬万鼻付近の海岸にて化石散策していました。漂着したウミガメ発見しました。かなり腐敗している状態でした。事務局より：写真を拝見したところアカウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
愛知県 永田孝様より（6/22）

6月22日 愛知県田原市の大草海岸西ノ谷付近にて漂着したアカウミガメを発見しました。なお96297と書いている青い標識がついていました。事務局より：標識番号を確認したところ、2013年6月16日に高知県室戸市椎名漁港から放流した個体でした。放流時のサイズは甲長805mm、甲幅626mmでした。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 沢野みや子様より（6/22）

6月22日 神奈川県平塚市の虹ヶ浜にて漂着したウミガメを発見しました。事務局より：写真を拝見したところアカウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
Science at Sea 石井雅之様より（6/23）

6月23日 神奈川県平塚市の虹ヶ浜にて漂着したアカウミガメを発見しました。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 匿名の方より（6/23）

6月22日 神奈川県横浜市鶴見区の大黒埠頭で浜からウミガメ姿を発見しました。白っぽい頭に茶色い模様、1メートル位の茶色い甲羅をしていました。

\*\*\*\*\*  
串本海中公園センター 吉田徹様より（6/23）

6月17日 和歌山県串本町上浦海岸付近にて漂着したメスのアカウミガメを発見しました。甲長は880mm、甲幅は770mmでした。なお標識がついており、標識番号は56527でした。事務局より：標識番号を確認したところ、2010年6月17日に和歌山県日高郡みなべ町千里浜で産卵した個体でした。産卵時のサイズは甲長785mm、甲幅616mmでした。

\*\*\*\*\*  
兵庫県 西野恵介様より（6/25）

6月25日 兵庫県南あわじ市土生の定置網にて死亡したアカウミガメを発見しました。事務局より：株式会社ウエスコの石原が調査に行きました。アカウミガメは未成熟のメス個体でした。大きさは甲長637mm、甲幅522mmでした。胃および腸の中は水分が多いもの、おそらく数個体分のショウジンガニのような甲殻片が見つかりました。

\*\*\*\*\*

赤穂市役所 永石一彦様より（6/28）

6月28日 兵庫県赤穂市大塚海岸で漂着したアカウミガメを発見したと市民の方から連絡がありました。かなり腐敗していました。事務局より：株式会社ウエスコの石原が調査に行きました。大きさは甲長637mm、甲幅566mmでした。漂着しているのが岩場で埋める場所がなく、腐敗がひどかったため解剖はしませんでした。

\*\*\*\*\*  
牟岐町西漁協 松本様より（6/27）

6月27日 徳島県海部郡牟岐町西漁協のつぼ網にて死亡したアオウミガメを発見しました。混獲されていたのは、メスのアオウミガメでした。大きさは甲長424mm、甲幅416mmでした。

\*\*\*\*\*  
下田海中水族館 浅川弘様より（6/29）

6月27日 静岡県下田市田牛にて上陸したアカウミガメを発見しました。しかし砂が薄く、産卵できずに帰海してしまいました。

\*\*\*\*\*  
甲浦漁港 森本様より（6/25）

高知県東洋町甲浦漁港の小型定置網にてアオウミガメを3頭混獲しました。なお、3頭とも生きていました。事務局より：室戸基地の河野が調査に向かいました。大きさは1個体目が甲長435mm、甲幅371mmでした。2個体目は甲長403mm、甲幅345mmでした。3個体目は甲長386mm、甲幅は325mmでした。測定と標識装着後、甲浦沖から放流しました。

\*\*\*\*\*  
Science at Sea 石井雅之様より（7/2）

6月27日 神奈川県小田原市江之浦にて漂着したウミガメを発見したと地元の方から連絡をうけました。なお62371と書かれた青い標識がついていたとのことです。事務局より：標識番号を確認したところ、2011年1月21日に高知県室戸市室戸岬町高岡漁港から放流されたアカウミガメのオスの個体でした。放流時の大きさは甲長783mm、甲幅637mmでした。

\*\*\*\*\*  
高知県 まつもとゆうじ様より（7/2）

7月2日 高知県安芸市の浜辺を早朝に散歩していたら、上陸しているウミガメを発見しました。なおJPN 96737と書かれた標識がついていました。事務局より：標識番号を確認したところ、2014年6月16日に高知県室戸市室戸岬町椎名漁港から放流されたメスのアカウミガメでした。放流時のサイズは甲長924mm、甲幅707mmでした。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 匿名の方より（7/2）

6月30日 神奈川県横須賀市芦品一丁目の大楠漁港の奥の岩場で、漂着したウミガメを発見しました。腐敗していました。事務局より：写真を拝見したところアカウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
下田海中水族館 浅川弘様より（7/7）

7月1日 静岡県下田市外浦の砂浜でウミガメが上陸していると現地の方から連絡がありました。大急ぎで現場に向かうと、すでに戻ってしまったということでウミガメの姿はありませんでした。連絡をく

れた方に話を聞くと、種類はアオウミガメで大きさは500mmくらいだったとのことでした。

\*\*\*\*\*  
公益財団法人しまね海洋館 村上昌吾様より (7/13)

6月30日 島根県益田市遠田海岸にて漂着したアカウミガメを発見したと島根県浜田水産事務所から連絡がありました。大きさは全長100cm位だったとのことでした。

\*\*\*\*\*

■ウミガメ速報14-14 (7/31)

\*\*\*\*\*  
NPO法人屋久島うみがめ館 大牟田様より (7/9)

6月7日 鹿児島県熊毛郡屋久島町永田の前浜にてジャンボタグ装着したアカウミガメの上陸と産卵を確認しました。標識番号は73850と73851でした。事務局より：標識番号を確認したところ、高知県室戸市より放流された個体でした。放流時のサイズは甲長789mm、甲幅622mmでした。

\*\*\*\*\*  
大阪府 古荘勝行様より (7/20)

7月20日大阪府岬谷川港の沖合300m~400mの位置にて漂流しているアカウミガメの死体を発見しました。大きさは甲長727mmでした。標識はついていませんでした。事務局より：須磨海浜水族園の石原が死亡個体を須磨海浜水族園まで運び解剖を行いました。解剖したところ、アカウミガメはオスの未成熟個体でした。胃の中には何も入っていませんでした。腸にはフジツボの殻が39.2g入っていました。

\*\*\*\*\*  
南知多ビーチランド 伊藤幸太郎様より (7/21)

7月20日 愛知県知多郡美浜町付近の浜にて21時頃ウミガメが上陸していると住民の方から連絡がありました。駆けつけたところ、ボディープットを掘っている最中でした。しかし、草が生い茂っていた為か産卵せずに途中で帰海してしまいました。大きさは甲長861mm、甲幅 約670mmでした。甲羅の右縁が変形しており計測が難しかったです。なお、インコネタグ89251がついていました。事務局より：標識番号を確認したところ、2012年6月14日に静岡県湖西市より放流した個体でした。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 涌田明夫様より (7/22)

7月20日 神奈川県三浦半島剣崎灯台前の入江にて漂着したウミガメを発見しました。事務局より：Science at Seaの石井さんが調査に向かいました。漂着していたのは、成熟したオスのアカウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
沖縄県 匿名の方より (7/26)

7月26日 沖縄県名護市安和海岸にて波打ち際で漂流しているウミガメの死体を発見しました。引き上げようかと悩みましたが、それが良いことなのか、わからずにやめました。大きさは甲長300mmくらいでした。

\*\*\*\*\*  
東京都 川村亮二様より (7/27)

7月27日 千葉県旭市三川の飯岡海水浴場にて漂着したウミガメを発見しました。

\*\*\*\*\*  
琴浦町役場 田口様より (7/29)

7月29日 鳥取県琴浦町赤崎ふるさと海岸にて波打ち際で漂流しているウミガメの死体を発見しました。海水浴客の邪魔にならぬよう浜まで引き上げました。大きさは全長1mくらいでした。なお、74370と書かれた標識がついていました。事務局より：標識番号を確認したところ、屋久島より放流した個体でした。

\*\*\*\*\*

■ウミガメ速報14-15 (8/13)

\*\*\*\*\*

2014年6月16日に明石市の望海浜でアカウミガメが産卵しました。明石市は都市部ではめずらしく、アカウミガメが産卵に訪れるところですが、今回の産卵は2008年以来6年ぶりのことでした。明石市ではこの産卵巣を当初より見守っており、一般の関心も高いことから、その孵化・子ガメの脱出の様子をインターネットを通して広くLIVE配信することとされました。日本ウミガメ協議会では2005年2008年に引き続き、この活動に協力しています。

\*\*\*\*\*

■ウミガメ速報14-16 (9/8)

\*\*\*\*\*  
丸世大吉漁業生産組合 中尾雄作様より (8/1)

2014年7月22日 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦1番地先の定置網にてアオウミガメが混獲されました。アオウミガメは生存しており元気だったので標識を確認した後、海に放流しました。標識番号は97641と97642でした。事務所より：標識番号を確認したところ、鹿児島県の野間池より放流した個体でした。

\*\*\*\*\*  
慶尚南道東京事務所 金昌燮様より (8/4)

2014年7月26日 韓国慶尚南道南海群三同面の海「竹防簾漁場」にアオウミガメが入り込んでいたので捕まえたとの連絡がありました。アオウミガメは無傷で元気でした。大きさは甲長580mm、甲幅450mmでした。なお96934と書かれた標識がついていました。事務局より：標識番号を確認したところ、2014年4月21日に鹿児島県の野間池より放流した個体でした。

\*\*\*\*\*  
宮崎県日向市 神代丸水産様より (8/5)

2014年7月25日 宮崎県日向市細島沖の定置網にてアオウミガメが混獲されました。91145と書かれた標識がついていました。2014年8月4日にも同じ場所アオウミガメが混獲されました。100480と書かれた標識がついていました。2個体とも生存しており元気だったので標識番号確認後、放流しました。事務局より：標識番号を確認したところ、91145の標識は2012年8月22日に高知県室戸市三津漁港から放流した個体でした。放流時の大きさは甲長844mm、甲幅628mmでした。100480の標識は2014年7月4日宮崎県明神山海岸にて産卵していた個体でした。産卵時の大きさは甲長840mm、甲幅695mmでした。

\*\*\*\*\*  
北海道新聞苫小牧支社 奥天卓也様より (8/6)

2014年8月6日 北海道小牧市有明町2丁目の海岸にアカウミガメが漂着していると板橋英和さんから連絡がありました。体長は1.2mほどで腐敗はしておらず新鮮な状態とのことです。

\*\*\*\*\*  
千葉県 鶴戸雄一郎様より (8/7)

2014年8月3日 千葉県九十九里の一松海岸にてウミガメが漂着していました。かなり腐敗していました。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 北村美香子様より (8/11)

2014年8月11日 神奈川県三浦郡葉山町の森戸海岸にてアカウミガメの漂着がありました。大きさは全長1m20cmでした。事務局より：Science at Sea 石井雅之様が行政から連絡を受け同個体の調査を行いました。未成熟のアカウミガメのオスで、中身はベスト化しつつあり、特に所見はありません。

\*\*\*\*\*  
沖縄県豊見城市在住 瀬長様より (8/11)

2014年8月10日 豊見城市豊崎の美らSUNビーチにて遊歩道の上をパタパタ這っているウミガメの赤ちゃんを1匹見つけました。波打ち際から20mぐらい離れていたもので、捕まえて波打ち際まで運んで放しましたが、砂浜に戻ってしまいました。事務局より：頂いた情報から察するに遊歩道の街灯に誘引されて、うまく海に戻れなかったと考えられます。もし、今後同じような状況に遭遇された場合にはその近くの暗い砂浜、陸上側に子ガメを誘引する光がない砂浜から放していただくと、海にうまく戻れるでしょう。

\*\*\*\*\*  
熊野市環境対策課 濱口圭様より (8/12)

2014年8月11日 三重県熊野市大泊海水浴場にてウミガメが漂着していると地元の土木業者の和歌山さんから連絡がありました。現場に向かいましたが腐敗と欠損が激しく種類の判別はできませんでした。大きさは推定値になりますが甲長550mm、甲幅500mmでした。

\*\*\*\*\*  
東京大学大気海洋研究所 福岡拓也様より (8/12)

2014年8月8日 岩手県下関伊郡山田町山田湾にてアカウミガメの混獲がありました。アカウミガメは生存しており、大きさは甲長742mm、体重64.5kgでした。91725と91726と書かれた標識がついていました。2014年8月9日にも岩手県下関伊郡山田町船越湾にてアカウミガメの混獲がありました。アカウミガメは生存しており、大きさは甲長783mm、体重72.5kgでした。91793と91794と書かれた標識がついていました。事務局より：標識番号を確認したところ、91725と91726の標識がついた個体は、北海道函館市白尻町の白尻漁港斜路から放流した個体でした。91793と91794の標識がついた個体は、北海道茅部郡森町港町の森漁港協前岸壁から放流した個体でした。

\*\*\*\*\*

## ■ウミガメ速報14-17 (10/8)

\*\*\*\*\*  
和歌山県みなべ基地 鶴田祐士様より (8/19)

2014年8月17日 和歌山県日高郡みなべ町千里浜に上陸、産卵したアカウミガメに標識がついていました。番号は90943でした。事務局より：標識番号を確認したところ、2014年6月4日に高知県室戸市三津漁港から放流した個体でした。放流時の大きさは甲長807mm、甲幅608mmでした。エコー検査にて卵胞を確認しています。

\*\*\*\*\*  
千葉県 富岡もも香様より (8/19)

2014年7月28日 千葉県鴨川市小湊海岸にてウミガメが漂着していました。白骨化していました。

\*\*\*\*\*  
和歌山県みなべ基地 鶴田祐士様より (8/20)

2014年7月9日 和歌山県日高郡みなべ町千里浜に上陸、産卵したアカウミガメに標識がついていました。番号は96723でした。事務局より：標識番号を確認したところ、2014年5月30日に高知県室戸市高岡漁港から放流した個体でした。放流時の大きさは甲長830mm、甲幅634mmでした。

\*\*\*\*\*  
静岡県 西野様より (8/22)

2014年8月22日 静岡県湖西市白須賀海岸にてオサガメの漂着がありました。事務局より：国産水産資源研究所の岡本さんが調査に向かいました。波打ち際1~2m位の距離しかなく、埋設のため重機で引っ張る必要がありました。また腐敗が進んでいました。大きさは甲長1.6m、全長2.4mでした。

\*\*\*\*\*  
兵庫県 現地の方より (8/24)

2014年8月24日 兵庫県神戸市垂水区福田川にてアカウミガメが漂着していました。事務局より：2014年8月22日に神戸市立須磨水族園の石原さんが調査に向かいました。漂着していた個体の大きさは甲長776mm、甲幅689mmでした。標識はついていませんでした。幹線道路から丸見えの位置で、多くの連絡がありました。

\*\*\*\*\*  
岡山県 山本和史様より (8/26)

2014年8月26日 岩手県上閉伊郡大槌町吉里1丁目6-26の付近にてアカウミガメが漂着していました。83841と書かれた標識がついていました。

\*\*\*\*\*  
鹿児島県漁師 山下哲郎様より (8/28)

2014年8月28日 鹿児島県甕島瀬々野浦西海岸付近の磯たてあみにて96886と書かれた標識のみを発見しました。事務局より：番号を確認したところ、2013年12月1日に鹿児島県の野間池より放流したアオウミガメでした。放流時の大きさは甲長880mm、甲幅706mmでした。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 岡田真人様より (9/2)

2014年8月23日~8月24日 千葉県館山市伊戸海岸を散策していたらウミガメの骨を5つ発見しました。2014年8月29日~8月30日 同じ浜でウミガメの骨を14つ発見しました。

\*\*\*\*\*  
鹿児島県 柳川様より (9/2)

2014年9月2日 鹿児島県肝付町内之浦漁協の定置網にてアオウミガメの混獲がありました。992585と書かれたプラスチック標識と4142?Aと書かれた金属製の標識がついていました。大きさは目測で全長1.5mくらいでした。事務局より：標識番号を確認したところ、92585の標識はエバーラスティング・ネイチャーさんが2014年父島から放流した個体でした。

\*\*\*\*\*  
のとじま水族館 池口新一郎様より (9/4)

2014年9月3日 石川県能登島目町沖富山湾の定置網にてアオウミガメが混獲あったと地元の漁師の方から連絡がありました。アオウミガメは生存しており、標識はついていませんでした。大きさは甲長420mm、甲幅340mmでした。計測後、海に戻したとのことです。

\*\*\*\*\*  
日本大学生物資源 科学部 小島隆人様より (9/4)

2014年8月3日 静岡県伊東市赤沢定置漁場にてアオウミガメが捕獲されました。なおアオウミガメは標識確認後、直ちに再放流しました。標識番号は76924です。事務局より：標識番号を確認したところ、この個体は2011年生まれで2012年にエバーラスティング・ネイチャーさんが父島にて放流した個体でした。

\*\*\*\*\*  
静岡県 現地の方より (9/9)

2014年8月19日 静岡県静岡市清水区蒲原中地先のテトラポットにてアオウミガメが漂着していました。大きさは甲長400mm~450mmくらいでした。腐敗してしまいました。

\*\*\*\*\*  
愛知県南知多町篠島漁業協同組合 ふくばやし様より (9/11)

2014年9月11日 伊勢湾中部国際空港の西南沖の引き網にてウミガメの混獲がありました。99721と書かれた標識とY1401と書かれた標識がついていました。ウミガメは少し弱っていましたが海に放流しました。事務局より：標識番号を確認したところ、2013年7月1日に鹿児島県熊毛郡屋久島町永田の前浜で上陸と産卵が確認されている個体でした。

\*\*\*\*\*  
宮城県 匿名の方より (9/16)

2014年9月16日 宮城県多賀城市七ヶ浜の吉田浜漁港脇にアカウミガメが漂着していました。首付近に穴が開いていました。

\*\*\*\*\*  
西海市役所水産課 小田芳和様より (9/18)

2014年9月18日 長崎県西海市崎戸町本郷芋島地先の定置網にてアオウミガメが2匹混獲されました。1個体目の大きさは甲長650mm、甲幅600mm、体重31.8kgでした。なお、97669と97670と書かれた標識がついていました。県庁に連絡したら外して送ってくれと言われた為97669の標識を1つ外してしまいました。2個体目の大きさは甲長770mm、甲幅700mm、体重56.6kgでした。標識はついていませんでした。2個体とも生存していたので測定後、海に放流しまし

た。事務局より：1個体目の標識番号を確認したところ、2014年8月21日に鹿児島県の野間池より放流した個体でした。

\*\*\*\*\*  
大阪府 うえにし様より (9/21)

2014年9月21日 大阪府貝塚市貝塚港のテトラポットにてアカウミガメが漂着していました。事務局より：須磨水族園の石原さんが調査に向かいました。アカウミガメの大きさは甲長836mm、甲幅697mmでした。尾が伸長していたためオスだと思われます。

\*\*\*\*\*  
南さつま市役所水産課 石井様より (9/22)

2014年9月19日 鹿児島県南さつま市大野岬沖のエビ網にてアオウミガメが混獲されました。ウミガメは死亡していました。なお、96076と書かれた標識がついていました。事務局より：標識番号を確認したところ、2013年4月8日に鹿児島県の野間池より放流した個体でした。放流時の大きさは甲長441mm、甲幅344mmでした。

\*\*\*\*\*  
三重県尾鷲市農林水産事務所 中瀬様より (9/22)

2014年9月14日 三重県北牟婁郡紀北町紀伊長島区海野の定置網にてウミガメが混獲されていました。頭と標識が網に引っかかっている状態で死亡していました。標識番号は56642でした。大きさは甲幅400mm程度、体重8kgでした。

\*\*\*\*\*  
貝塚市立自然遊学館 岩崎拓様より (9/25)

2014年9月23日 大阪府貝塚市貝塚港のテトラポットにてアカウミガメが漂着していました。腐敗しており頭部がない状態でした。

\*\*\*\*\*  
帯広百年記念館 小林真樹様より (9/25)

2014年9月24日 北海道十勝郡浦幌町字昆布刈石の砂浜にてウミガメが漂着していました。頭部と手足もなく、甲羅だけになっており白骨化していました。大きさは甲長約550mmです。事務局より：写真を拝見したところ、ヒメウミガメの甲羅だと思われます。\*\*\*\*\*  
豊島株式会社 中村洋太郎様より (9/27)

2014年9月27日 千葉県九十九里浜北部の椎名内にてアカウミガメが2匹漂着していました。標識は付いていませんでした。

\*\*\*\*\*  
琉球大学ちゅらがーみー 高橋優美様より (9/27)

2014年8月30日 沖縄県中頭郡読谷村都屋漁港にてアオウミガメの混獲がありました。大きさは標準直甲長838mm、最小直甲長835mm、腹甲長725mmでした。42497と書かれた標識がついていました。事務局より：標識番号を確認したところ、2004年12月3日に三重県尾鷲湾松島定置において混獲されていた個体でした。放流者は三重大学かめつぷりでした。放流時の大きさは標準直甲長724mm、最小直甲長720mm、直甲幅571mmでした。

\*\*\*\*\*  
鹿児島県野間池 宮内叶様より (10/1)

2014年9月30日 鹿児島県野間池の定置網にてアオウミガメが混獲されました。大きさは甲長956mm、

甲幅757mmでした。92309と92310と597と書かれた白い標識がついていました。2014年10月1日 同じく鹿児島県野間池の定置網にてアオウミガメが混獲されました。大きさは甲長888mm、甲幅703mmでした。92277と92278の標識がついていました。2個体とも元気でしたので海へ放流しました。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報14-18 (11/8)

\*\*\*\*\*

鳥取県立博物館 一澤圭様より (10/1)

2014年10月1日 鳥取県鳥取市気高町国道9号線沿いの姉泊海岸でアオウミガメが漂着していました。大きさは甲長約800mm、甲幅約650mmでした。標識は付いていませんでした。腐敗は進んでおらず、目立った外傷もありませんでした。

\*\*\*\*\*

宮城県 根本暁生様より (10/4)

2014年10月3日 宮城県仙台市宮城野区中野の海岸線にてアオウミガメが漂着していました。甲長は約800mmでした。標識は付いていませんでした。

\*\*\*\*\*

長野県 川崎様より (10/6)

2014年10月6日 茨城県鉾田市大竹海岸でアオウミガメが2頭漂着していたと茨城県に住む知人の秋田宏幸さんから連絡を受けました。大きさは2頭とも甲長約700mm位とのことです。標識は付いていませんでした。

\*\*\*\*\*

肝付町内之浦漁協 柳川たくや様より (10/9)

2014年10月9日 鹿児島県肝付町内之浦漁協の定置網にてウミガメの混獲がありました。ウミガメは生存していました。大きなアオウミガメと同じくらいの大きさをしていました。元気だったのですぐに放流しました。事務局より：写真を拝見したところ、ウミガメの種類はオサガメでした。

\*\*\*\*\*

大島公園事務所長 土井高太郎様より (10/13)

2014年10月13日 東京都伊豆大島大島公園の行者浜にてアオウミガメが漂着していました。大きさは甲長900mm、甲幅750mmでした。標識は付いていませんでした。

\*\*\*\*\*

銚子海洋研究所 宮内様より (10/13)

2014年10月13日 千葉県銚子市長崎町の長崎鼻灯台付近の浜にて発信器をつけたウミガメが漂着していました。事務局より：確認したところ、2014年8月17日岩手県船越湾から発信器を取り付け、東京大学大気海洋研究所が放流した個体でした。

\*\*\*\*\*

美津島町漁協 戸江様より (10/16)

2014年10月15日 長崎県対馬美津島町漁協の定置網にてアオウミガメの混獲がありました。100847と100848と書かれた標識がついていました。元気だったので標識番号を確認した後、海に放流しました。事務局より：標識番号を確認したところ、鹿児島県の野間池より放流した個体でした。

\*\*\*\*\*

千葉県 齊藤かおる様より (10/24)

2014年10月24日 千葉県館山洲崎の浜にてアオウミガメが漂着していました。事務局より：ELNAさんが調査に向かいました。甲長71cmのアオウミガメで、腐敗が進んでおり、雌雄の判断はつかなかったそうです。

\*\*\*\*\*

東京都 白井孝様より (10/25)

2014年10月25日 東京都伊豆大島のエビ刺網にてアオウミガメの混獲がありました。残念ながら死亡していました。標識は付いていませんでした。事務局より：以前にもタイマイの情報をお寄せ頂いた方です。

\*\*\*\*\*

西表島野生生物保護センター 日名耕司様より (10/27)

2014年10月26日 沖縄県西表島の中野海岸にてアオウミガメが漂着していると地元の井上さんより連絡がありました。大きさは曲甲長525mm、曲甲幅500mmでした。標識は付いていませんでした。

\*\*\*\*\*

社団法人 気仙沼復興協会 小倉大作様より (10/30)

東日本大震災・津波後の浜の清掃中に、ウミガメの死体を発見しました。古い情報も合わせて、3件まとめてお知らせいただきます。2012年5月 宮城県気仙沼市お伊勢浜海水浴場にて甲長600mmのウミガメが漂着していました。2013年の秋宮城県気仙沼市本吉町九多丸海岸にて甲長700mmのウミガメが漂着していました。2014年9月宮城県気仙沼市大谷海岸にて甲長700mmのウミガメが漂着していました。3件とも標識は付いていませんでした。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報14-19 (12/19)

\*\*\*\*\*

漁業組合杵築支店 安倍様より (11/6)

2014年11月6日に大分県別府湾にて底引き網にてアオウミガメが混獲されました。全体で150cm位の大きさで、生きていたのでそのまま放流しました。標識タグのついたカメは滅多に見ないため、番号を読むために仕方なく標識タグを取り外しました。標識番号は91461です。事務局より：2013年5月12日に高知県室戸市高岡漁港から放流した個体でした。放流時の体サイズは甲長81.5cm、甲幅60.7cmでした。

\*\*\*\*\*

越前水族館 鈴木様より (11/13)

本年放流した個体のタグNO.等お知らせします。2014年7月14日に福井県坂井市三国町浜地海岸にて6頭のウミガメを放流しました。1. 2012年1月26日に福井県若狭町小川の海岸にてアオウミガメを保護。発見時の体サイズは甲長15.2cmで放流時は甲長41.2cm、甲幅30.4cmです。標識番号は88525と88526です。2. 2012年2月11日に福井県あわら市波松の海岸にてアオウミガメを保護。発見時の体サイズは甲長10.2cmで放流時は甲長25.8cm、甲幅19.0cmです。標識番号は88565と88566です。2014年10月12日に北海道古平町沖の刺網にかかり再放流。3. 2013年12月24

日に福井県美方町日向の定置網にて混獲されたアオウミガメを保護。発見時の体サイズは甲長46.1cmで放流時は甲長45.0cm、甲幅37.0cmです。標識番号は88561と88562です。4. 2013年12月26日に福井県若狭町世久見鳥辺島周辺の定置網に混獲されたアオウミガメを保護。発見時の体サイズは甲長44.8cmで放流時は甲長43.0cm、甲幅38.0cmです。標識番号は88527と88528です。5. 2014年2月28日に福井県越前町新保の漁港内にてアオウミガメを保護発見時の体サイズは甲長37.9cmで放流時は甲長35.0cm、甲幅36.0cmでした。標識番号は88563と88564です。6. 2014年2月12日に福井県高浜町和田浜海水浴場の海岸にてアオウミガメを保護。発見時の体サイズは甲長79.9cmで放流時は甲長82.0cm、甲幅62.0cmでした。標識番号は91743と91744です。2014年11月12日に長崎県平戸市度島町の定置網に混獲され再放流。

\*\*\*\*\*  
沖縄県 観光客の方より (11/15)

2014年11月14日に沖縄県八重山郡竹富町黒島阿名泊にてアオウミガメの死亡個体が漂着していました。事務局より：黒島研究所の亀田と濱田が調査を行いました。腐敗損傷が激しく、甲長は推定51.2cm、甲幅は42.7cmでした。標識タグはついていませんでした。

\*\*\*\*\*  
竹富町教育委員会 あらまた様より (11/19)

2014年11月19日に沖縄県八重山郡竹富町小浜島にてアオウミガメが漂着していました。弱ってはいましたが生きていたようなので黒島研究所に連絡しました。事務局より：黒島研究所で保護しました。左頭部に裂傷があり、1mmほど陥没し頭骨も割れていました。標識タグはついておらず、体サイズは甲長35.7cm、甲幅30.4cmでした。カメの保護には竹富町役場と離島を結ぶ船会社に協力して頂きました。

\*\*\*\*\*  
高知県 土佐清水市漁業指導所 さいだ様より (11/25)

2014年11月24日に土佐清水市布の伊勢エビ網にウミガメが混獲されました。甲羅の大きさは見た目45cm位です。死亡していたため海へ投棄しました。

\*\*\*\*\*  
沖縄県 平良様より (11/30)

2014年11月30日に沖縄県竹富町黒島伊古棧橋でアオウミガメが混獲されました。体サイズは甲長46.9cm、甲幅40.6cm、体重11.4kgでした。事務局より：黒島研究所から放流した個体でした。放流時の体サイズは甲長46.8cm、甲幅40.7cm、体重11.8kgです。

\*\*\*\*\*  
松江水産事務所 堀様より (12/4)

2014年12月3日に大分県大社稲佐の浜に打ち上げられたウミガメを発見しました。元気がなく、口の周りには漁網らしきものが絡まっていたので取れるところは取りました。弱っていましたが海へ放流すると、時折海面に鼻先を出しながら自力で泳いでいきました。

\*\*\*\*\*  
新潟県 新潟市水族館 野村卓之様より (12/15)

北海道留萌市に標識番号12239/12240のタグが装着されたウミガメが漂着したと連絡がありました。以下、放流情報です。<放流時計測値>標識：ロートタグ(右前/左前)：12239/12240 直標準甲長：268mm、直甲幅：241mm、体重：3.45kg。<経緯>2012年7月15日新潟市北区太夫浜海岸で産卵→卵23個を新潟市水族館で保護。2012年9月3日 館内で20個体が孵化。2012年9月5日 リニューアル工事のため、長岡市寺泊水族博物館へ預託。2013年6月27日 生存15個体のうち、14個体を新潟市水族館へ移動。2014年8月22日 新潟市信濃川河口沖約10kmより7個体放流。標識(右前/左前)：12219/12220、12221/12222、12223/12224、12233/12234、12237/12238、12239/12240、12241/12242。なお、2013年7月24日に、すでに6個体を放流しており(信濃川河口沖約6km)、現在は同腹1個体のみ展示中です。標識(右前/左前)：12217/12218、12225/12226、12227/12228、12229/12230、12231/12232、12235/12236。

\*\*\*\*\*

■ウミガメ速報15-1(1/30)

\*\*\*\*\*  
高知県甲浦漁業協同組合より(12/21)

2014年12月21日に高知県安芸郡東洋町甲浦漁港沖の小型定置に生きたウミガメが混獲されていました。事務局より：室戸基地の河野と田中が調査を行いました。体サイズは甲長44.0cm、甲幅37.7cmのアオウミガメでした。標識番号は90880と90989と100614です。2014年4月8日に高知県室戸市椎名大敷の定置網に混獲され2014年7月7日に高知県室戸市高岡漁港から放流した個体でした。放流時の体サイズは甲長40.8cm、甲幅は35.2cmです。調査後漁港内から放流しました。

\*\*\*\*\*  
高知県 かわぐち様より(12/26)

2014年12月26日に高知県室戸市羽根町羽根漁港内に腐敗したウミガメの死体が漂着していました。事務局より：室戸基地の河野と田中が調査を行いました。体サイズは甲長39.3cm、甲幅32.5cmのタイマイでした。体内にガスが溜まり体は膨張していました。頭部の鱗板が剥がれ落ち一部白骨化していました。

\*\*\*\*\*

## うみがめニュースレターに投稿される方へ

本誌はウミガメに関する国内唯一の総合情報誌として、関連するあらゆる情報を取扱い掲載しています。記事は投稿を原則として、生物学的知見はもちろんのこと、うみがめに関わる民俗、保護、論評や意見などの他に、英文誌に掲載された論文の和訳なども含みます。形式は特に定めるものではありませんので、読者の皆様もどうぞお気軽にご寄稿ください。

この他に、査読を必要とする和文原著論文も受け付けます。原著論文を希望される方は、投稿時にその旨を編集委員にお伝え頂き、下記の投稿規定に従って原稿を書いて下さい。

なお、本誌はISSN番号の登録を受けた定期刊行物で、海外の研究者へも配布しております関係上、編集の際に英文の要旨とタイトルをつけております。予めご了承ください。

【うみがめニュースレターへの原稿送付先と本誌に関わる連絡先】

E-mail: [newsletter@umigame.org](mailto:newsletter@umigame.org)

〒573-0163

大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302

日本ウミガメ協議会内 うみがめニュースレター編集委員会 石原孝

### 原著論文の投稿規定

(2012年12月31日制定)

(2013年5月10日改定)

#### 1. 投稿資格

うみがめニュースレター（以下、本誌）に投稿される原著論文は、原則として未発表のものとするが、うみがめニュースレター編集委員会（以下、本会）の協議により、特に有益と認められる場合はその限りではない。

#### 2. 査読

本会の選任した2名の査読者によって、原稿の審査を行なうこととする。内容に問題があると判断された場合は、本会として著者にその旨を通知する。

#### 3. 原稿の提出方法

本誌への投稿原稿は、E-mailによる電子ファイルの送付を基本とするが、郵送でも可能とする。電子ファイルは、テキスト形式のファイルやマイクロソフト社製ワードなど標準形式のファイルを用いること。なお、郵送の場合でも、可能な限り電子媒体（CD-ROMなど）に保存した電子ファイルを同封する。

#### 4. 原稿の用語と表記

- 1) 原稿は日本語を用いて、1ページの構成は0行25文字、24行とする。句読点は、「,」「.」を用いることとする。
- 2) 本文中に最初に出てきた生物の種名は、標準和名と学名を併記し、標準和名はカタカナ表記、学名はイタリック体指定を行なうこととする。  
例 アカウミガメ *Caretta caretta*
- 3) 本文中にて著作物を引用する場合は、次の表記に従うこととする。著者が3名以上の場合は和文では「ほか」、英文では「et al.」を用いる。
- 4) 地名はわかりやすい表現を用い、緯度経度の表記もしくは調査地を図示するのが望ましい。
- 5) 単位はメートル法を用いる。

#### 5. 原稿の構成

原稿は原則として、「表題」（和文および英文）、「著者名」（和文および英文）、「代表者の連絡先」（和文および英文）、「英文要旨（Abstract）」、「Key words」、「はじめに」、「材料と方法」、「結果」、「考察」、「引

用文献]、「謝辞」、「表」、「図」の項目から構成することとする。なお、英文要旨は 300 words 以内、Key words は内容を適切に表現する英単語 5 つ以内とする。

## 6. 引用文献について

1) 本文中の引用文献の表記については下記の例を参考にすること。

例 鈴木 (1990) および田中・上田 (1995) は...  
...との報告があるが (村田ほか, 2000 ; 大野, 1980a, b, 1983), ...

...である (Suzuki and Ueda, 1985 ; Tanaka et al., 1998)。

2) 文献の引用方法は下記の通りとする。なお、配列順は、第一著者の姓のアルファベット順、第一著者が同一の場合、第二著者のアルファベット順、以下第三以下の著者について、上記の指示に従うこととする。すべての著者が同一の場合は発表の年号順とし、同一著者、同一年に出版された著作物に関しては表題のアルファベット順に配列することとする。

この際、同一著者、同一年に発表された著作物に関しては、配列順に「a」、「b」、「c」...の記号を年号の後ろに、2000a, 2000b のように付記することとする。

雑誌などからの引用：氏名・年・表題・雑誌名 巻(号)：頁-頁。

単行本からの全体引用：氏名・年・書名・出版社名, 所在地・総頁数。

単行本からの一部引用：氏名・年・表題・引用頁・編集者(編)書名・出版社名, 所在地。

### 例

Kamezaki, N. 2003. What Is a Loggerhead Turtle? The Morphological Perspective. p. 28-43. In: A. B. Bolten and B. E. Witherington (eds.) *Loggerhead Sea Turtles*. Smithsonian Books, Washington, D.C.

近藤康男 . 1968. アカウミガメ . 海亀研究同人会, 徳島 . 96p.

松沢慶将・亀崎直樹 . 2008. ウミガメ類におけるマーキング法 (特集 両生類・爬虫類におけるマーキング法). 爬虫両棲類学会報 2008(2): 133-137.

Matsuzawa, Y., K. Sato, W. Sakamoto and K. A. Bjorndal. 2002. Seasonal fluctuations in sand

temperature: effects on the incubation period and mortality of loggerhead sea turtle (*Caretta caretta*) pre-emergent hatchlings in Minabe, Japan. *Mar. Biol.* 140: 639-646.

宮脇逸朗 . 1994. 和歌山県串本町地先海域で捕獲されたウミガメ類とその直甲長について . p. 75-80. 亀崎直樹・藪田慎司・菅沼弘行 (編) 日本ウミガメの産卵地 . 日本ウミガメ協議会, 大阪 .

Spotila, J. R. 2004. *Sea Turtles: A Complete Guide to Their Biology, Behavior, and Conservation*. Johns Hopkins University Press, Baltimore. 227p.

## 7. 図・表

1) 図表はそのまま製版できるものとし、仕上がりサイズは半ページ幅、もしくは全ページ幅になることを考慮すること。

2) 図には下部に、表には上部に図 1. ...あるいは表 1. ...と図表ごとに通し番号を記し、図表の題名、説明文を記す。なお、本文を読まなくても理解できる程度の説明文を記入することとする。説明文は和英併記とする。

3) カラー図表は印刷版には適用不可であるが、PDF 版においては適用可能であるため、カラー図表を希望する場合は、投稿時にその旨を明記することとする。

4) 写真は図の扱いとする。

5) 図表が複数ある場合は、投稿時は 1 つずつ別のページに記すこととする。

6) 表および追記のテキストが含まれる図は、マイクロソフト社製エクセルに対応した形式のものを用いること。

## 8. 校正

校正は原則として、本会の責任の下に行なうこととするが、著者に校正を依頼する場合がある。

## 9. 別刷

PDF 版は無料で配布される。印刷版を希望する場合は、その旨を投稿原稿表紙に朱書きする。なお 10 部単位で受け付けるが、作製費と送料は著者負担とする。

## 10. 著作権

本誌に受理され、掲載された全ての内容の著作権は本会に帰属する。

---

## ■編集後記

4月になり、そろそろ今シーズンの産卵調査の準備をはじめている地域もあることでしょうか。もしかすると今号が発刊されるまでの間に今シーズンの初産卵も確認されているのではないのでしょうか。

さて、今号では3本の論文と日本ウミガメ会議の報告、日本ウミガメ協議会が配信しているウミガメ速報の2014年のまとめを掲載しています。寄稿くださった皆様、ありがとうございます。全体的に専門的になりすぎてしまいましたが、より身近な、ちょっとした出来事のお知らせや感想もお待ちしています。変な卵が見つかった、いつもは見ない場所でウミガメを見つけた、いままで付けてきた記録をちょっとまとめてみた、などなど、どんなことでも「ウミガメ」の文字が入れるものを残していきたいと思います。newsletter@umigame.orgまでご相談ください。

話は変わって、今号に掲載された論文を少しご紹介したいと思います。

宮里さんらにはハリセンボンを食べていたアカウミガメの事例を紹介いただきました。飼育されているウミガメは魚やイカなどを喜んで食べているように見えますが、野生の個体から魚を食べていたという記録はほとんどありません。きっと海の中では追いつけないのではないかと考えていますが、どうなのでしょう。ハリセンボンを追い詰めるアカウミガメの姿を想像しながら読ませていただきました。

松本さんらには沖縄県で見つかったオサガメについて報告いただきました。詳細な剖検の結果が記録されており、今後の比較対象として貴重な記録となります。また、このオサガメには船のスクリューによると思われる裂傷も残されていました。この傷が生前か死後かいつ付いたのかは分かりません。こうした傷が死因と関係しているのか、どうしたら調べることができるのか。法医学から学べば分かるのでしょうか。

木野さんらにはクロウミガメが何を食べていたのか、報告いただきました。クロウミガメはアオウミガメの亜種であるとか、いやいや別種であると言われていています。本来の生息地はガラパゴス諸島やメキシコといった太平洋の東側ですが、ごくごく稀に日本でも見つかります。このクロウミガメが何を食べているのか、アオウミガメと違いはあるのか。この論文は重要な知見を与えてくれます。

奄美大島で開催された日本ウミガメ会議の報告を読むと、参加した日の楽しい記憶が思い起こされます。次回は11月に千葉県一宮町、九十九里浜で開催されるとのこと。調査をされている方もウミガメに興味はあるけれどという方も、開催地ごとに地域の特色のあるウミガメ会議に参加されてみてはどうでしょうか。

次号は8月頃発行の予定です。（石原）

---

うみがめニュースレター編集委員会

編集委員長 石原孝

編集顧問 亀崎直樹

編集委員

平間茂知・河津勲・亀田和成・岡本慶

デザイン

宮原尚子

**Editor**

**Takashi Ishihara**

*Suma Aqualife Park, Hyogo, Japan*

**Editorial Adviser**

**Naoki Kamezaki**

*Okayama University of Science, Okayama, Japan  
& Suma Aqualife Park, Hyogo, Japan*

**Editorial Board**

**Shigetomo Hirama**

**Isao Kawazu**

**Kazunari Kameda**

**Kei Okamoto**

**Designer**

**Naoko Miyahara**

*Sea Turtle Association of Japan, Hirakata, Japan*

2015年3月31日発行

発行 うみがめニュースレター編集委員会

〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302

NPO法人 日本ウミガメ協議会

E-mail: [newsletter@umigame.org](mailto:newsletter@umigame.org)